

# 第 I 部 本道の生涯学習の現状

- 1 生涯学習に関する道民の意識
- 2 道内市町村における生涯学習推進体制の整備状況
- 3 北海道教育委員会の主な生涯学習振興施策
  - (1) 学習機会の提供
  - (2) 家庭教育支援の推進
  - (3) 望ましい生活習慣の定着
  - (4) 読書活動の推進
  - (5) 体験活動の推進
  - (6) 芸術・文化活動の推進
  - (7) 文化財の保護・保存
  - (8) 市町村等の生涯学習の振興に対する支援
  - (9) 各種関係団体に対する支援
  - (10) その他

# 第 I 部 本道の生涯学習の現状

## 1 生涯学習に関する道民の意識

### ◆ 調査の概要

- ・ 調査目的：道民の生涯学習に対する考え方や実態の把握
- ・ 調査期間：平成28年5月10日（火）～5月31日（火）
- ・ 調査対象：道内各市町村在住の住民（各市町村7名）1,246人
- ・ 回収率：98.3%

### ◆ 調査の項目

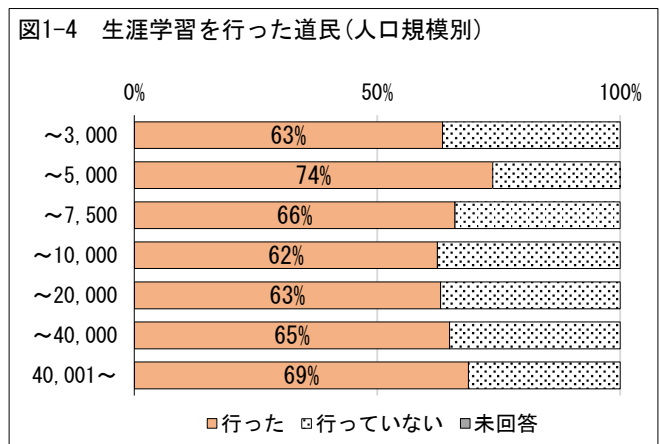
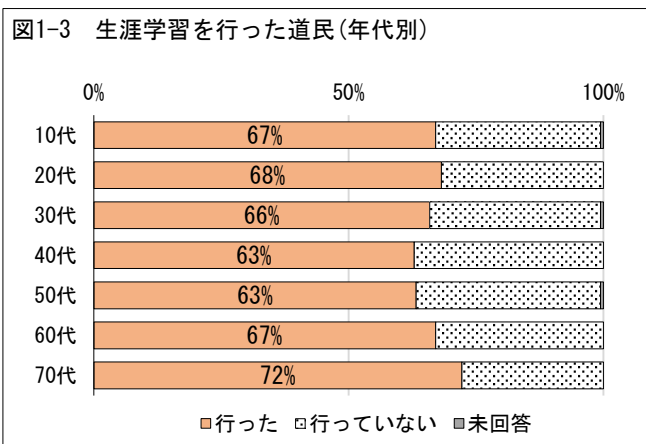
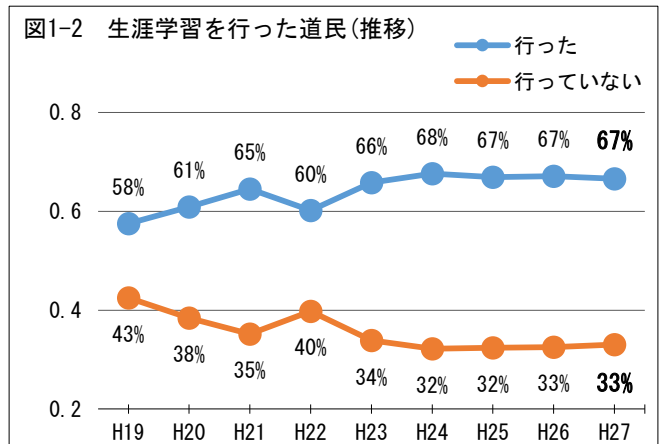
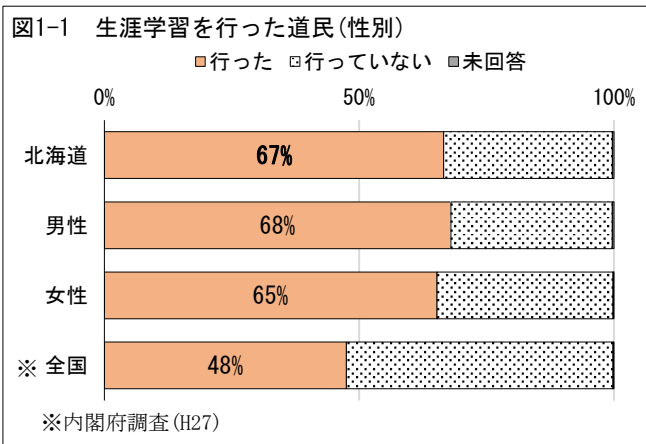
問1 この1年くらいの間に「生涯学習」を行った、または行っているか。	
いいえ	はい
	<p>問1-1 その学習活動をどのような場所や形態で行ったか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座や教室</li> <li>2 カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育</li> <li>3 学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の公開講座や教室</li> <li>4 学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の正規課程</li> <li>5 職場の教育、研修</li> <li>6 同好会が自主的に行っている集まり、サークル活動</li> <li>7 図書館、博物館、美術館</li> <li>8 テレビやラジオ</li> <li>9 情報端末やインターネット</li> <li>10 自宅での学習活動（書籍など）</li> </ol>
	<p>問1-2 この1年くらいの間に行った学習活動の内容は何か。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）</li> <li>2 教養的なもの（文化、歴史、科学、語学など）</li> <li>3 社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）</li> <li>4 健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）</li> <li>5 家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）</li> <li>6 育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）</li> <li>7 就職や転職のために必要な知識・技能（就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得など）</li> <li>8 職業において必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）</li> <li>9 情報通信分野の知識・技能（プログラムの使い方、ホームページの作り方など）</li> <li>10 ボランティア活動のために必要な知識・技能</li> <li>11 自然体験や生活体験などの体験活動</li> </ol>
	<p>問1-3 学習活動を通じて身につけた知識・技術や経験をどの程度生かしているか。  <small>（生かしている—どちらかと言えば生かしている—どちらとも言えない—どちらかと言えば生かしていない—生かしていない）</small></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 仕事や職業で生かしている</li> <li>2 資格の取得に役立っている</li> <li>3 まちづくりやボランティア活動などに生かしている</li> <li>4 子供たちを育むための活動に生かしている</li> <li>5 他人（子供たちを除く）の学習やスポーツ活動、文化活動などの指導に生かしている</li> <li>6 自分の人生をより豊かにしている</li> <li>7 自分の健康維持・増進に役立っている</li> </ol>
問2 ①現在の生活に満足しているか。②生きがいを感じて生活しているか。	
問3 地域の生涯学習の実態についてどのように捉えているか。 <small>（そう思う—どちらかと言えばそう思う—どちらとも言えない—どちらかと言えばそう思わない—そう思わない）</small>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分のまちに、学習した成果を生かす場がもっとあればよいと思う</li> <li>2 自分のまちでは、住民が自ら学習に取り組もうとする人が多いと思う</li> <li>3 自分のまちでは、インターネットを活用した学習やそれを支援する仕組みが充実していると思う</li> <li>4 自分のまちでは、役場などの行政機関が、NPOやボランティア団体と協働した取組を活発に行っていると思う</li> <li>5 自分のまちでは、自治会・町内会などの活動が活発に行われていると思う</li> <li>6 自分のまちには、子供たちが多様な体験活動をする場や機会が多いと思う</li> <li>7 自分のまちでは、子供たちの読書活動が充実していると思う</li> <li>8 自分のまちでは、子供たちが異年齢・異世代と交流する場や心を落ち着けられる居場所が充実していると思う</li> <li>9 自分のまちでは、多くの地域住民が子供たちの活動に関わりを持っていると思う</li> <li>10 自分のまちでは、家庭教育や子育てに関する学習・相談の機会が充実していると思う</li> </ol>	
問4 日常生活の中の課題について、どのように捉えているか。 <small>（大きな課題である—どちらかと言えば課題である—どちらとも言えない—どちらかと言えば課題とは思わない—課題ではない）</small>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地球温暖化や自然環境の保全など、環境に関すること</li> <li>2 安全・安心な食材や望ましい食生活に関すること</li> <li>3 異文化の理解や交流など、国際理解に関すること</li> <li>4 介護や孤独死、地場産業の担い手不足など、超高齢社会に関すること</li> <li>5 災害の危険性に関する理解や共助体制など、防災に関すること</li> <li>6 女性の人権尊重や社会進出の促進など、男女平等参画に関すること</li> <li>7 犯罪や交通事故、疾病など、安全・安心な暮らしに関すること</li> <li>8 悪質な販売方法や特殊詐欺など、消費者教育に関すること</li> <li>9 児童虐待やプライバシーの侵害など、人権に関すること</li> <li>10 だれもが暮らしやすいまちづくりに関すること</li> </ol>	

問5 地域にある学校を支援する活動に参加したいと思うか。  
 1 参加したことがあり、今後も参加したい  
 2 参加したことがないが、今後は参加してみたい  
 3 参加したことがあるが、今後は参加したくない  
 4 参加したことがなく、今後も参加したくない  
 5 わからない

問6 機会があれば再び学びたいと思うもの  
 1 日本語による実用的な文章表現やコミュニケーションの方法に関すること  
 2 文学や古典（古文や漢文）の理解に関すること  
 3 日本や世界の歴史・地理に関すること  
 4 法律や政治、経済、国際関係に関すること  
 5 宗教や哲学に関すること  
 6 心理学に関すること  
 7 自然科学や数学に関すること  
 8 健康やスポーツに関すること  
 9 芸術文化（音楽、芸術など）に関すること  
 10 外国語に関すること  
 11 消費生活、衣食住などに関すること  
 12 情報通信分野（プログラムの使い方、ホームページの作り方など）に関すること  
 13 工業技術（情報通信に関するものを除く）に関すること  
 14 農林水産業に関すること  
 15 経営ビジネス（財務会計やマーケティングなど）に関すること  
 16 医療や福祉（保育、介護など）に関すること

- 市町村名
- 性別
- 年代
- 「まちづくり」や「むらおこし」などのボランティア団体やNPO等への所属
- 道民カレッジの受講

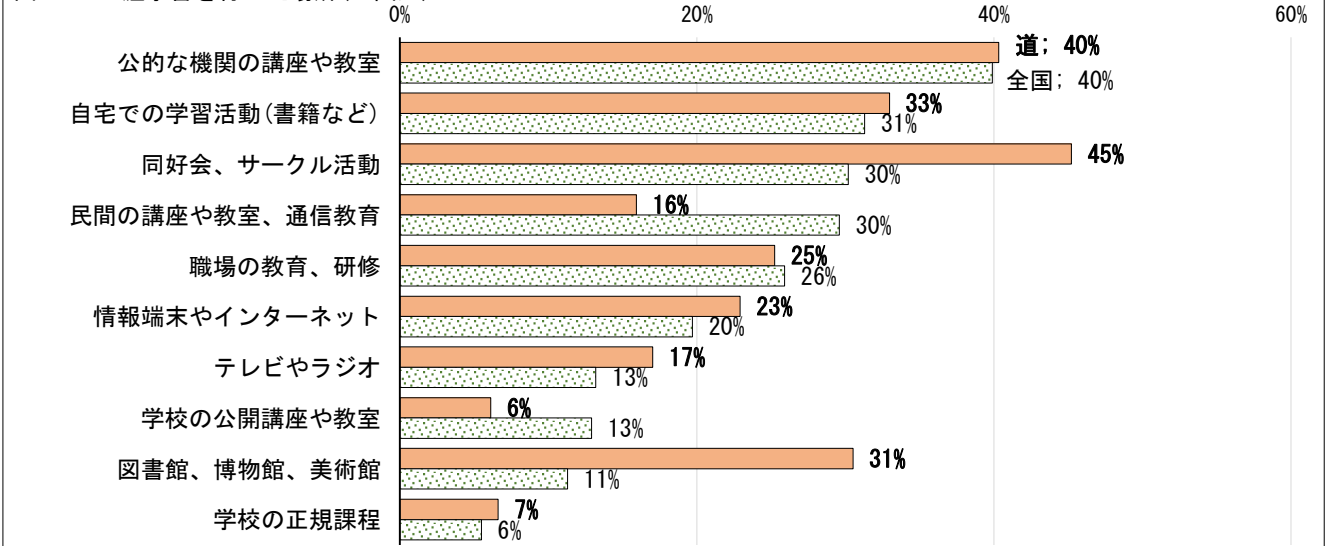
### (1) 生涯学習に取り組んでいる割合



- 「生涯学習」に取り組んだ道民は**67%**で、全国調査の**48%**より高く(図1-1)、平成23年度以降は6割ほどで推移しています(図1-2)。
- 40代から50代が他の年代と比べると低く、70代以上の割合が高くなっています(図1-3)。
- 人口3,000~5,000人規模の市町村での割合が高くなっています(図1-4)。

## (2) 学びの場所

図2-1 生涯学習を行った場所(全国比)



- 学習の場は「同好会、サークル活動」が45%、「公的な機関の講座や教室」が40%となっています(図2-1)。
- 国の調査と比較すると、「同好会、サークル活動」や「図書館、博物館、美術館」の割合が高く、「民間の講座や教室、通信教育」、「学校の公開講座や教室」の割合が低くなっています(図2-1)。

図2-2 生涯学習を行った場所(10代)

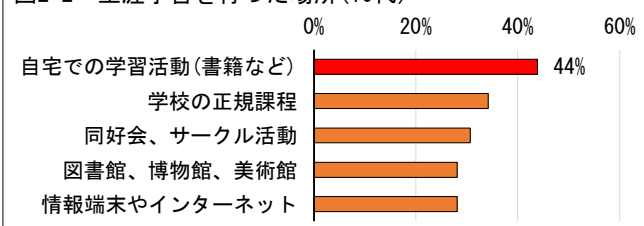


図2-3 生涯学習を行った場所(20代)

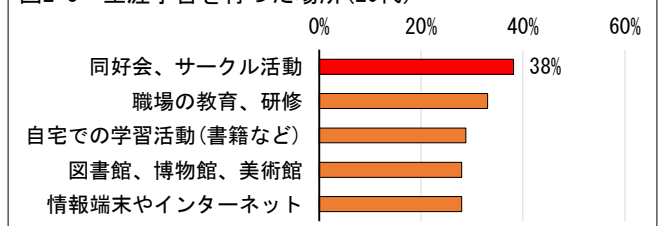


図2-4 生涯学習を行った場所(30代)

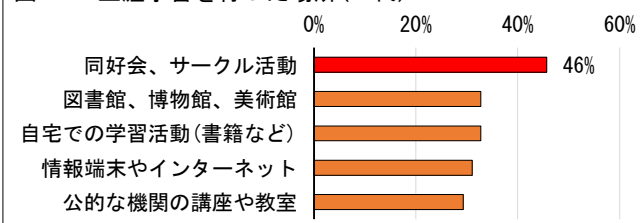


図2-5 生涯学習を行った場所(40代)

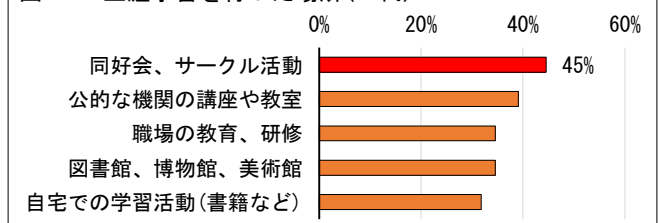


図2-6 生涯学習を行った場所(50代)

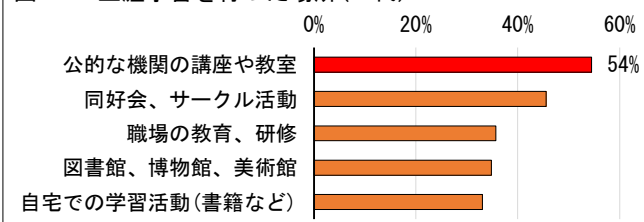


図2-7 生涯学習を行った場所(60代)

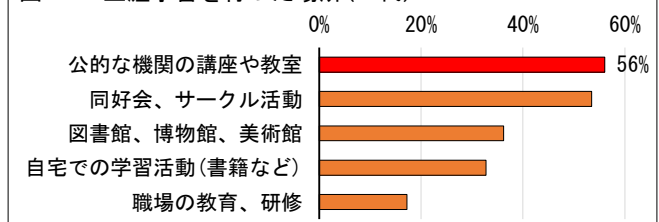
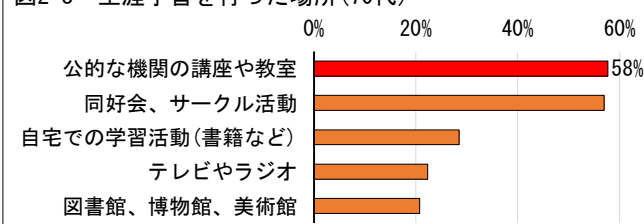
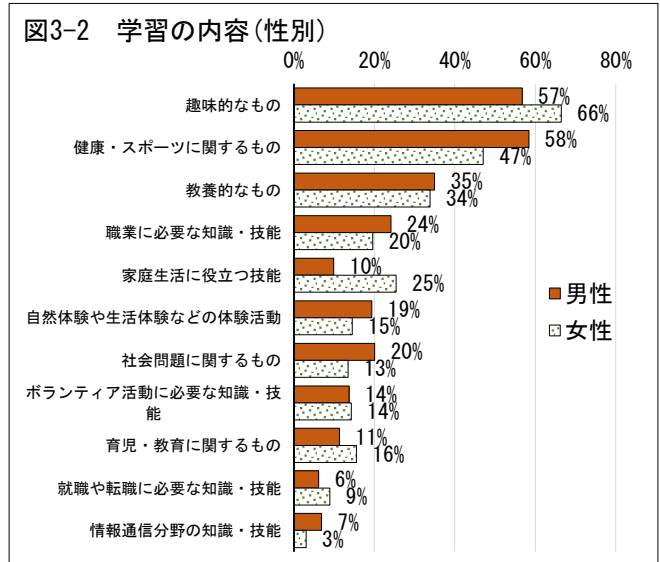
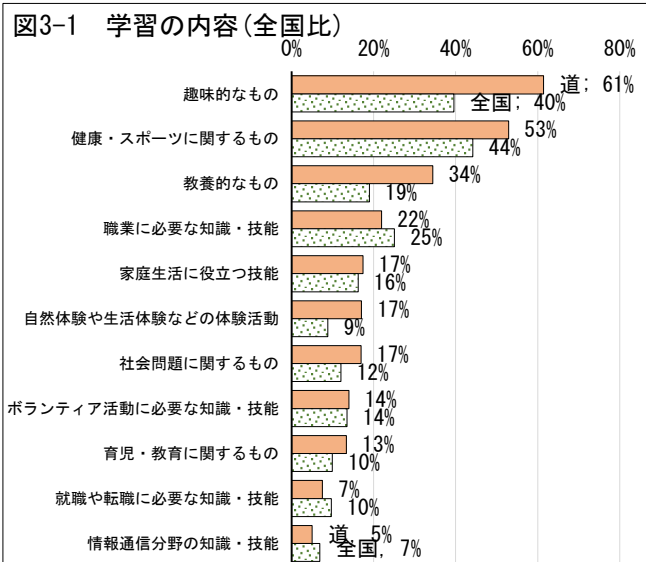


図2-8 生涯学習を行った場所(70代)

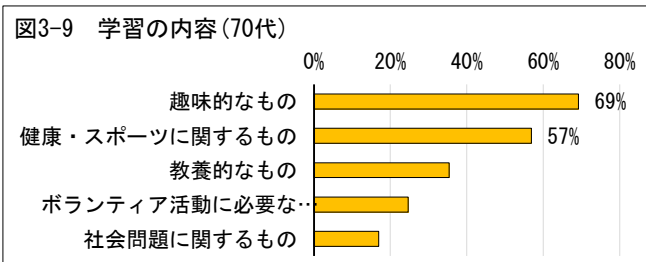
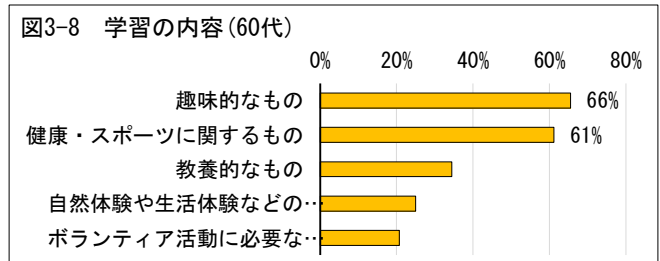
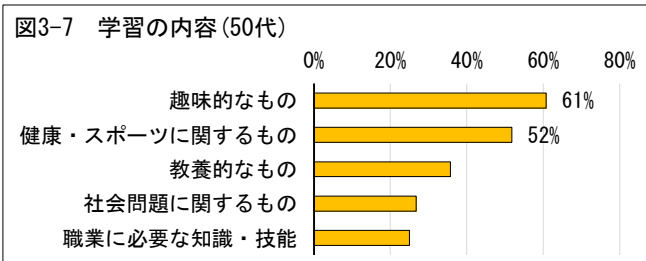
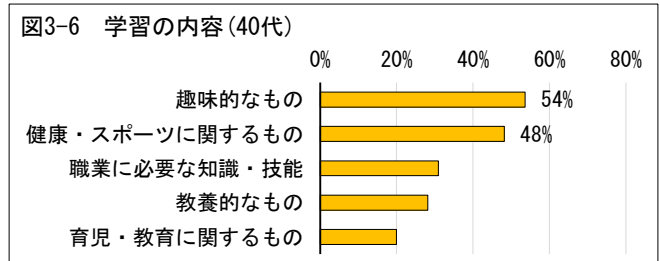
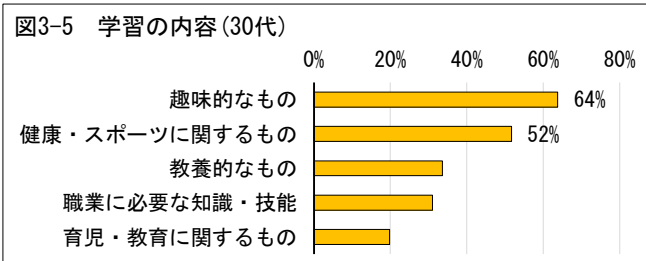
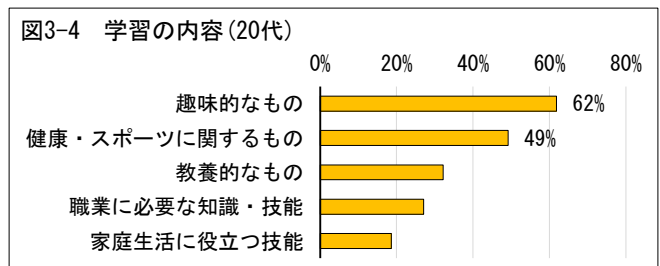
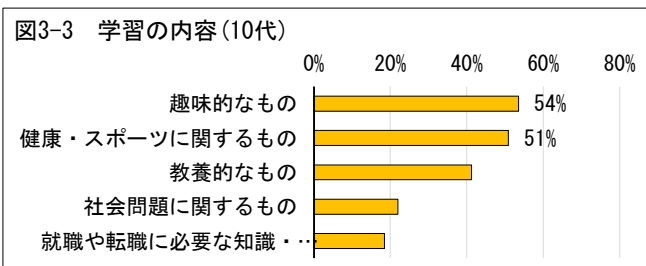


- 10代は「自宅での学習活動」、20~40代は「同好会、サークル活動」、50代以上は「公的な機関の講座や教室」が最も高くなっています(各上位5項目 図2-2~2-8)。

### (3) 学習の内容



- 全国と比べると、本道の方が「趣味的なもの」や「健康・スポーツに関するもの」、「教養的なもの」の割合が高くなっています(図3-1)。
- 性別では、男性が女性よりも、「健康・スポーツに関するもの」や「社会問題に関するもの」、「職業に必要な知識・技能」などが高くなっており、女性の方が男性よりも、「趣味的なもの」や「家庭生活に役立つ技能」、「育児・教育に関するもの」などが高くなっています(図3-2)。



- いずれの年代も「趣味的なもの」、「健康・スポーツに関するもの」、「教養的なもの」が上位となっており、その他では、10代は「社会問題に関するもの」、20～40代は「職業に必要な知識・技能」、50代は「社会問題に関するもの」、60代は「自然体験や生活体験などの体験活動」、70代が「ボランティアに関するもの」が高くなっています(図3-3～3-9)。

#### (4) 学習の生かし方

図4-1 学習の生かし方(男女別)

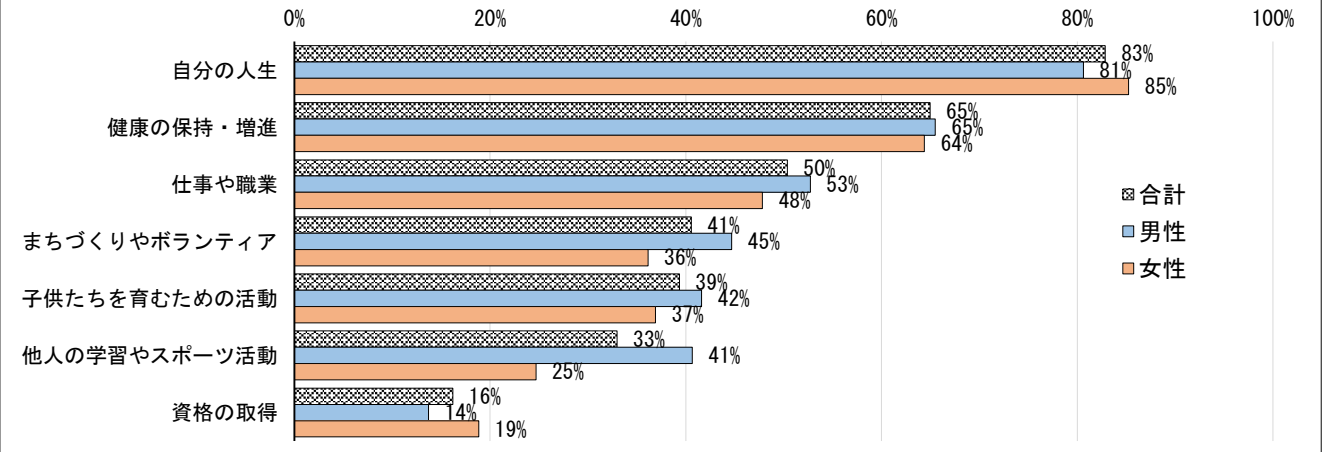


図4-2 学習の生かし方(10代)

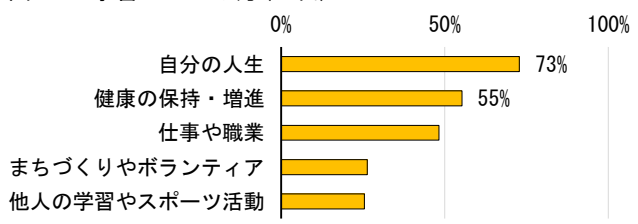


図4-3 学習の生かし方(20代)

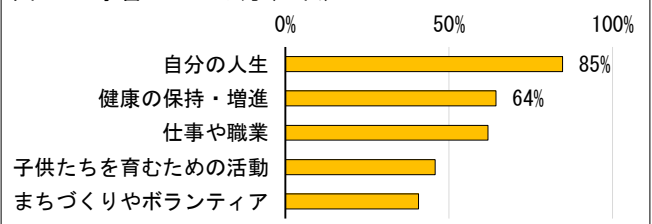


図4-4 学習の生かし方(30代)

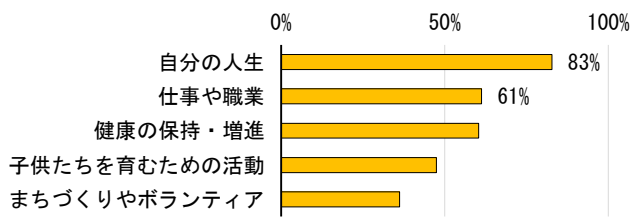


図4-5 学習の生かし方(40代)

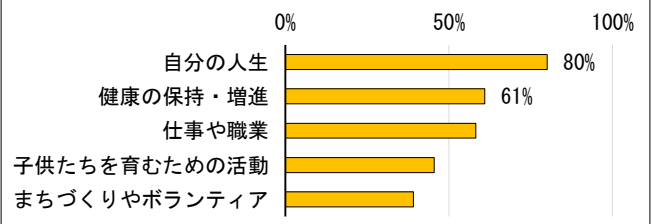


図4-6 学習の生かし方(50代)

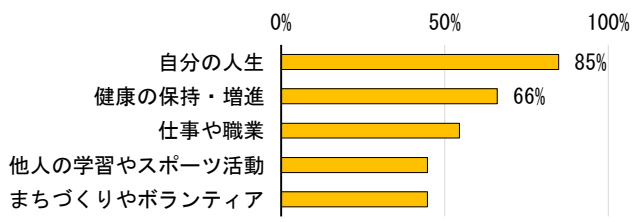


図4-7 学習の生かし方(60代)

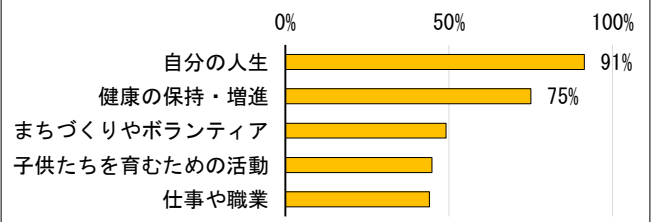
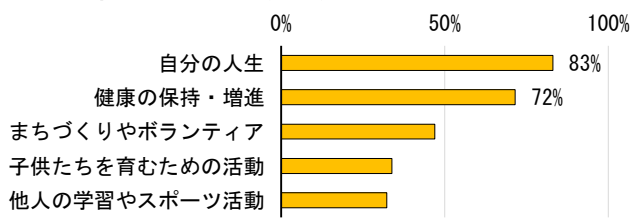
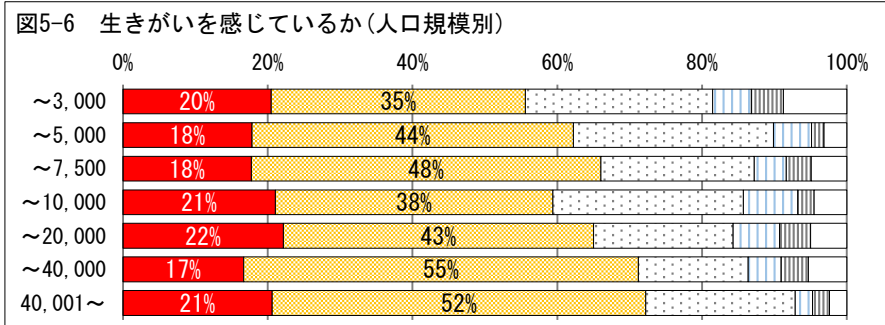
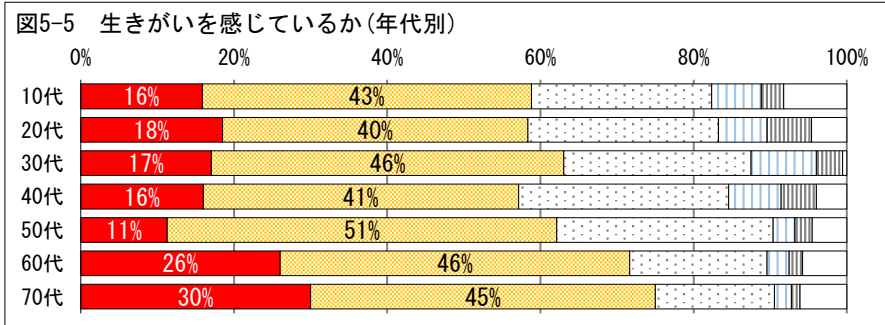
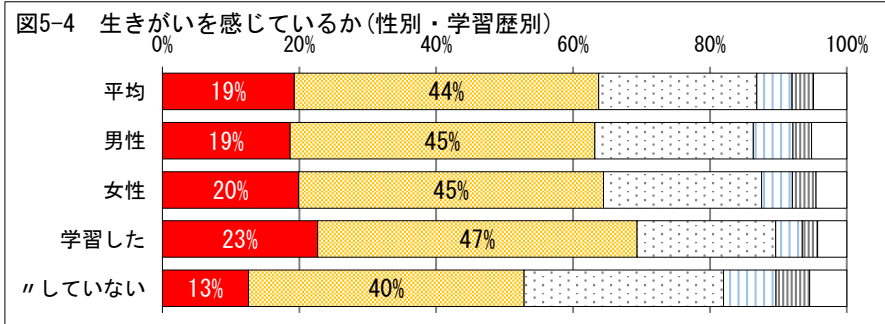
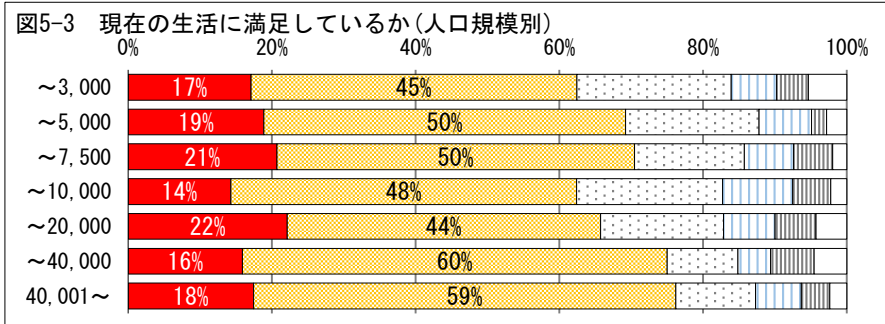
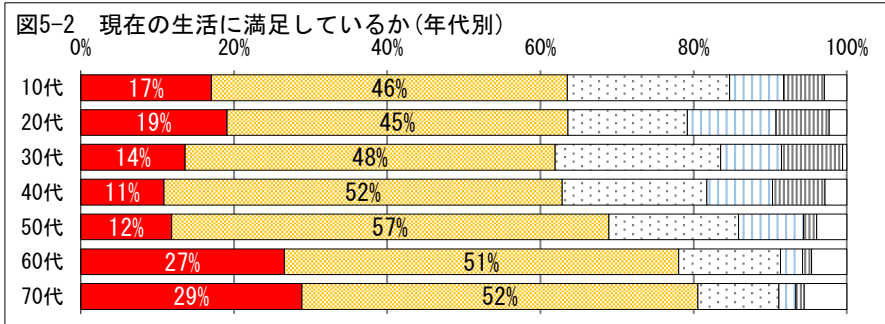
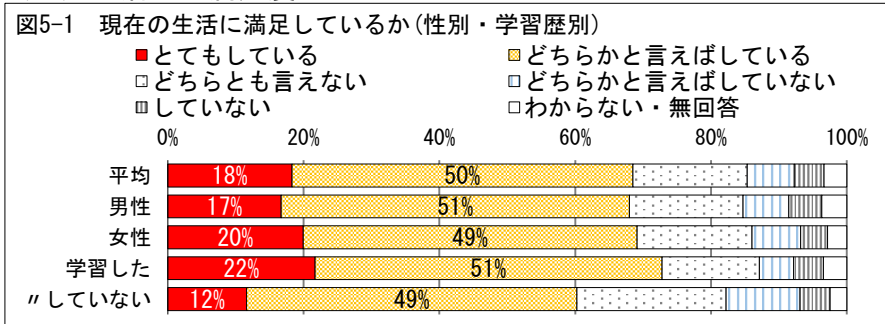


図4-8 学習の生かし方(70代)



- 性別では、「自分の人生」や「健康の保持・増進」、「仕事や職業」に学んだ成果を生かしている割合が高くなっています(図4-1)。
- 年代別では、30代以外の年代では、「自分の人生」や「健康の保持・増進」に生かしている割合が高く、次いで、10代から50代では、「仕事や職業」に生かしている割合が高く、60代以上は「まちづくりやボランティア」に生かしている割合が高くなっています(図4-2～4-8)。

(5) 生活への満足度と生きがい



○ 今の生活に満足している割合(「とても満足している」と「どちらかと言えば満足している」の合算値)は、全体は68%、男性が68%、女性が69%となっています。  
また、「生涯学習を行った」と回答した方が73%、「生涯学習をしていない」と回答した方が60%となっています(図5-1)。

○ 年代別には、年代が高くなるほど、満足度が高い傾向にあります(図5-2)。

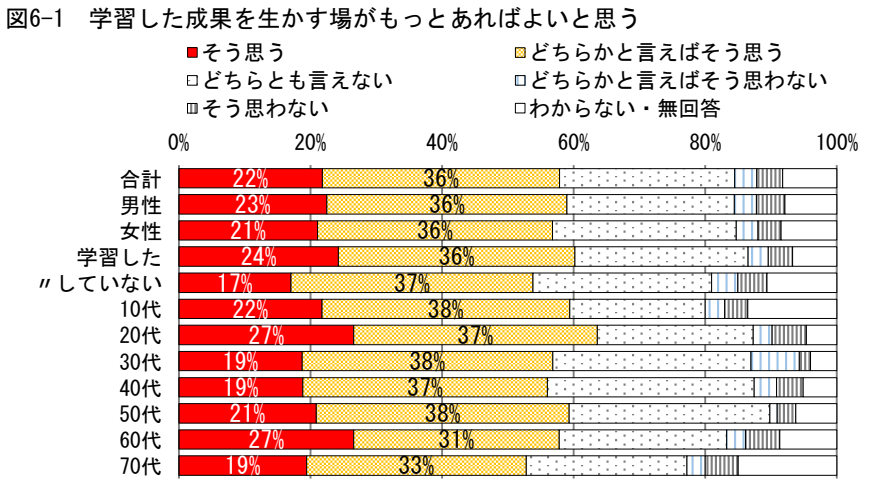
○ 人口規模別では、40,000人以上の市町村で満足度が高く、7,501～10,000人規模の市町村で低くなっています(図5-3)。

○ 今の生活に生きがいを感じている割合(「とても満足している」と「どちらかと言えば満足している」の合算値)は、全体は64%、男性が63%、女性が64%となっています。  
また、「生涯学習を行った」と回答した方が69%、「生涯学習をしていない」と回答した方が53%となっています(図5-4)。

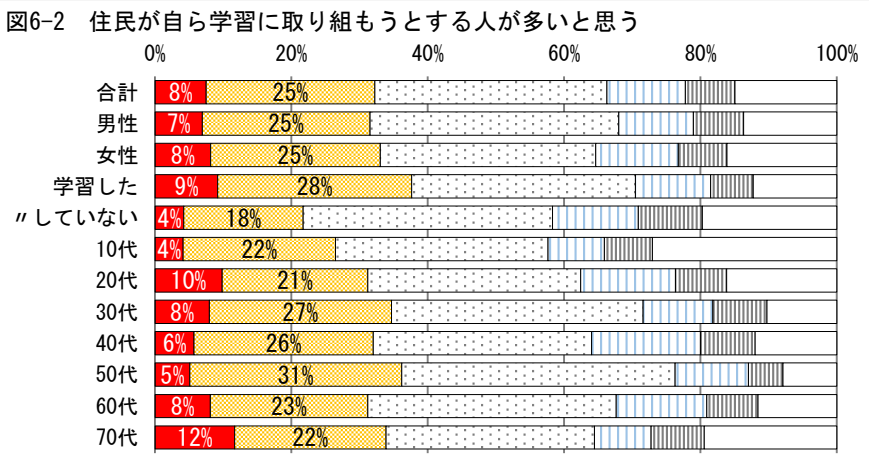
○ 年代別には40代が57%と最も低く、70代以上では75%と最も高くなっています(図5-5)。

○ 人口規模別では、40,000人以上の市町村で満足度が高く、7,501～10,000人規模の市町村で低くなっています(図5-6)。

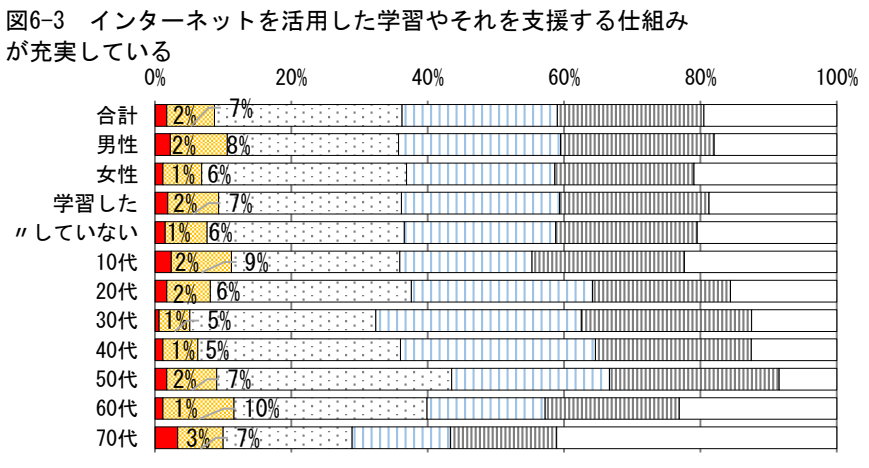
(6) 地域の生涯学習に対する意識



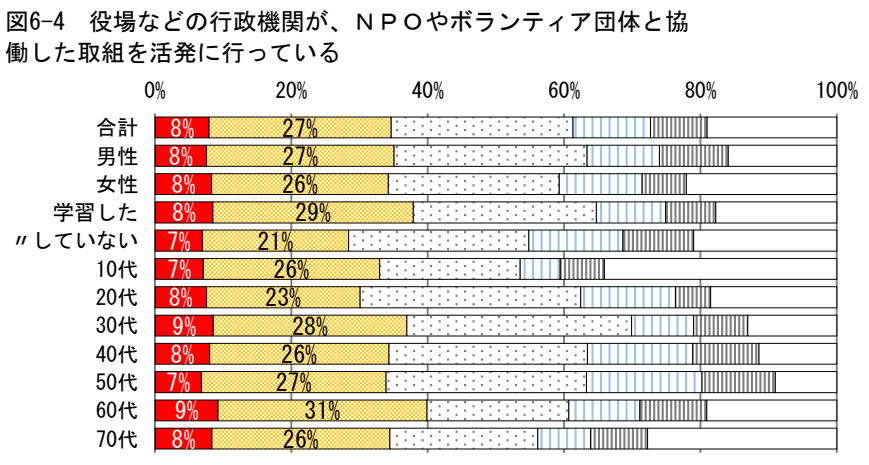
- 「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は(以下同様)、全体が58%、男性が59%、女性が57%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が60%、「行っていない」と回答した方が54%となっています。
- 年代別には、20代が64%で最も高く、次いで、50代が59%となっています。



- 全体は33%、男性が32%、女性が33%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が37%、「行っていない」と回答した方が22%となっています。
- 年代別には、50代が36%で最も高く、次いで、30代が35%となっています。



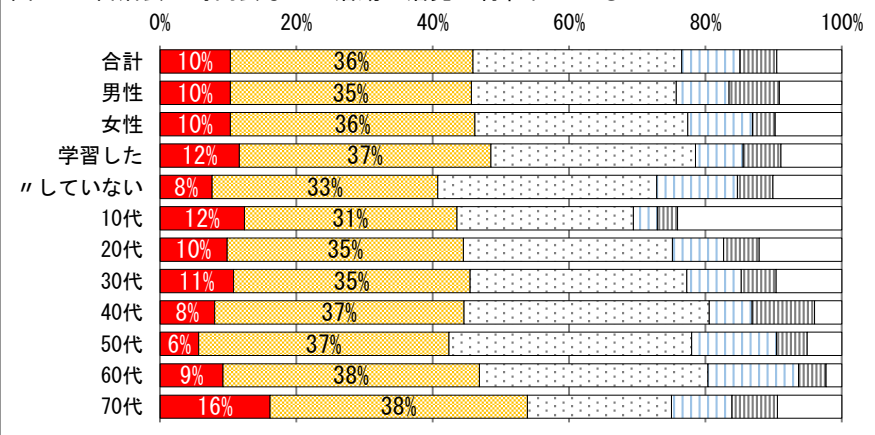
- 全体は9%、男性が10%、女性が7%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が9%、「行っていない」と回答した方が7%となっています。
- 年代別には、50代が36%で最も高く、次いで、30代が35%となっています。



- 全体は35%、男性が35%、女性が34%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が37%、「行っていない」と回答した方が28%となっています。
- 年代別には、60代が40%で最も高く、次いで、30代が37%となっています。

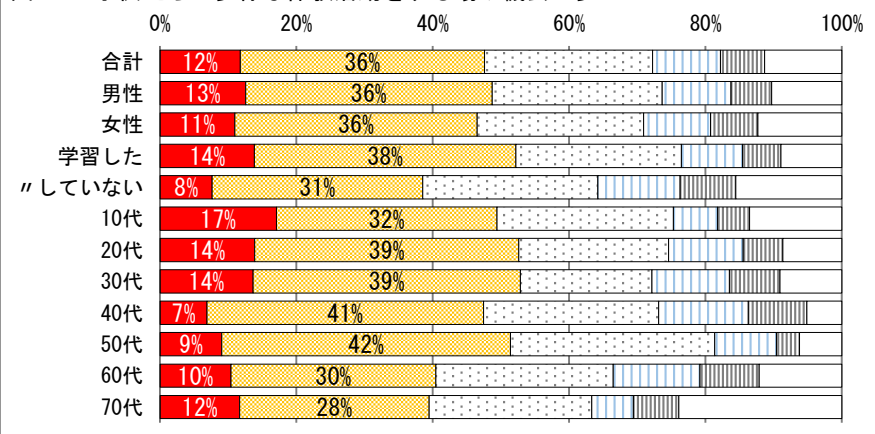


図6-5 自治会・町内会などの活動が活発に行われている



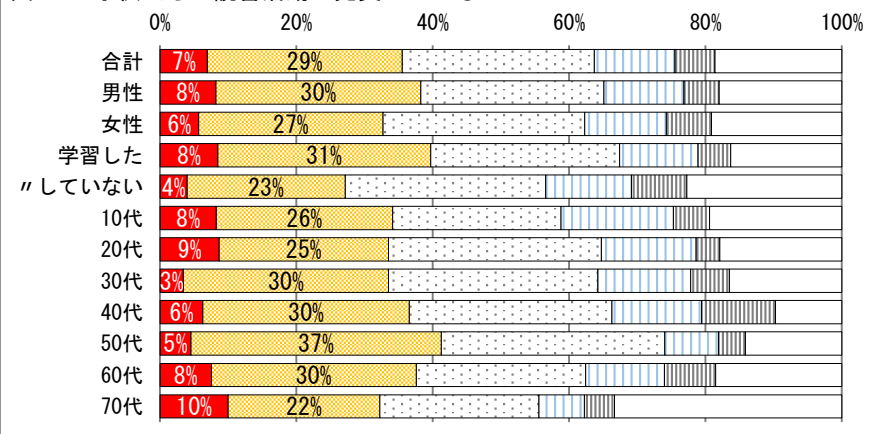
- 全体は46%、男性が45%、女性が46%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が49%、「行っていない」と回答した方が41%となっています。
- 年代別には、70代が54%で最も高く、次いで、60代が47%となっています。

図6-6 子供たちが多様な体験活動をする場や機会が多い



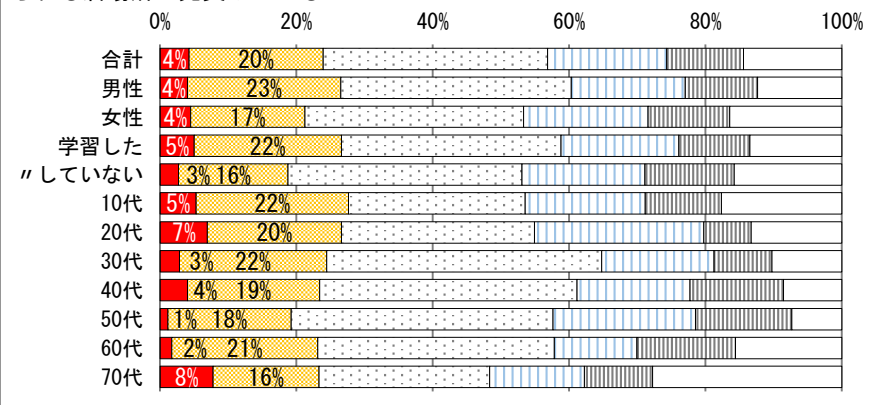
- 全体は48%、男性が49%、女性が47%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が52%、「行っていない」と回答した方が39%となっています。
- 年代別には、20代と30代が53%で最も高く、次いで、50代が41%となっています。

図6-7 子供たちの読書活動が充実している



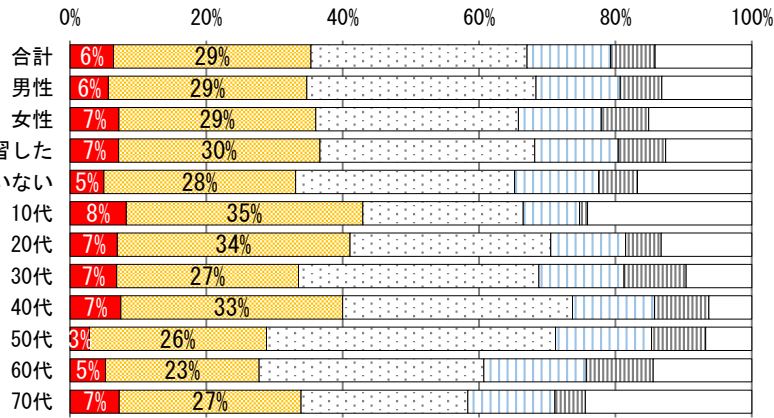
- 全体は36%、男性が38%、女性が33%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が39%、「行っていない」と回答した方が27%となっています。
- 年代別には、50代が42%で最も高く、次いで、60代が38%となっています。

図6-8 子供たちが異年齢・異世代と交流する場や心を落ち着けられる居場所が充実している



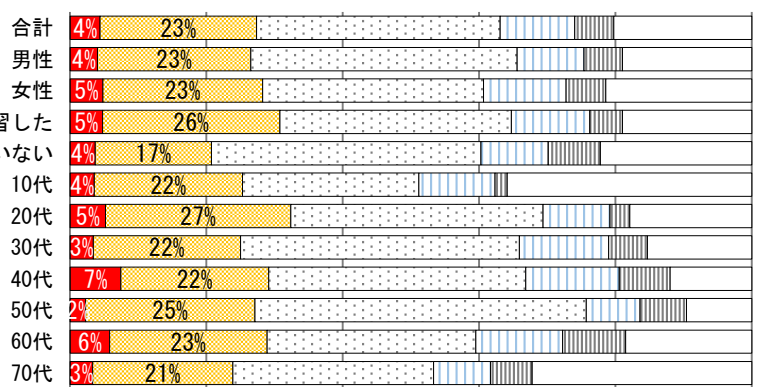
- 全体は24%、男性が27%、女性が21%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が27%、「行っていない」と回答した方が24%となっています。
- 年代別には、10代、20代が27%で最も高く、次いで、30代が25%となっています。

図6-9 多くの地域住民が子供たちの活動に関わりを持っている



- 全体は35%、男性が35%、女性が36%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が37%、「行っていない」と回答した方が33%となっています。
- 年代別には、10代が43%で最も高く、次いで、20代が41%となっています。

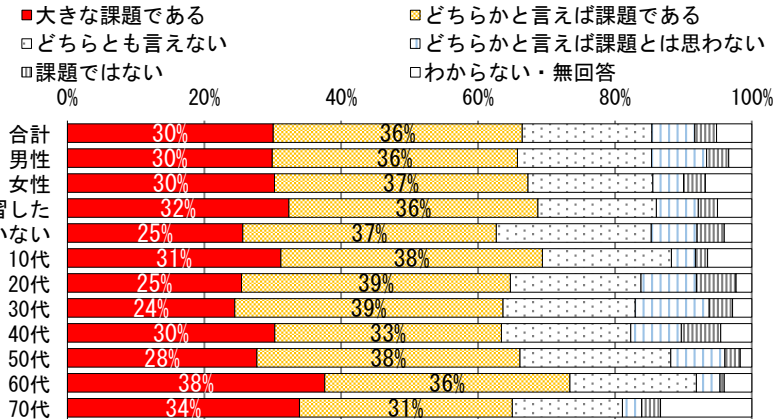
図6-10 家庭教育や子育てに関する学習・相談の機会が充実している



- 全体は27%、男性が27%、女性が28%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が31%、「行っていない」と回答した方が21%となっています。
- 年代別には、20代が32%で最も高く、次いで、40代、60代が29%となっています。

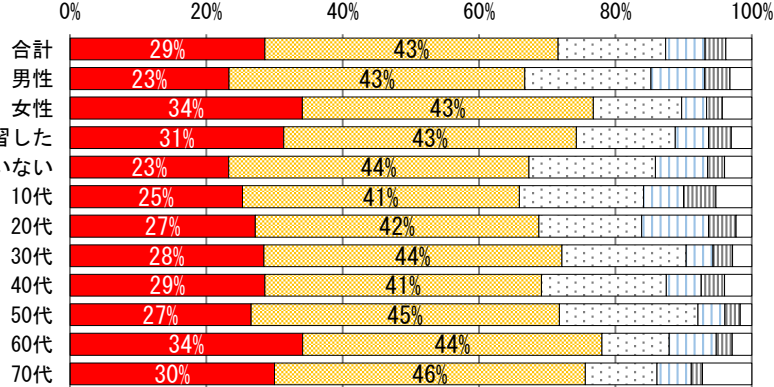
(7) 地域課題についての意識

図7-1 地球温暖化や自然環境の保全など、環境に関すること



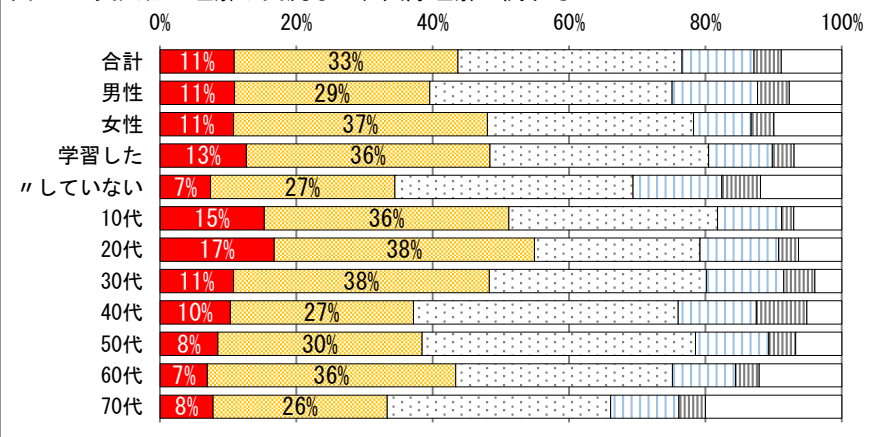
- 「大きな課題である」、「どちらかと言えば課題である」と回答した割合は(以下同様)、全体は66%、男性が66%、女性が67%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が68%、「行っていない」と回答した方が62%となっています。
- 年代別では、60代が74%で最も高く、次いで、10代が69%となっています。

図7-2 安全・安心な食材や望ましい食生活に関する理解など、食育に関すること



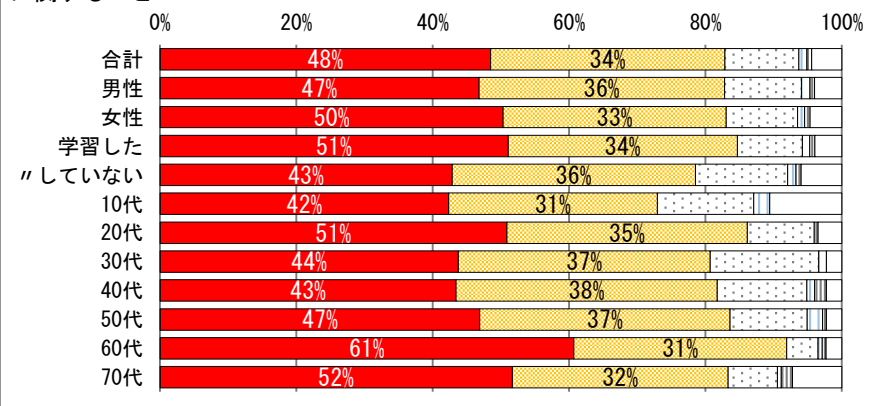
- 全体は72%、男性が66%、女性が77%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が74%、「行っていない」と回答した方が67%となっています。
- 年代別には、60代が78%で最も高く、次いで、70代が76%となっています。

図7-3 異文化の理解や交流など、国際理解に関すること



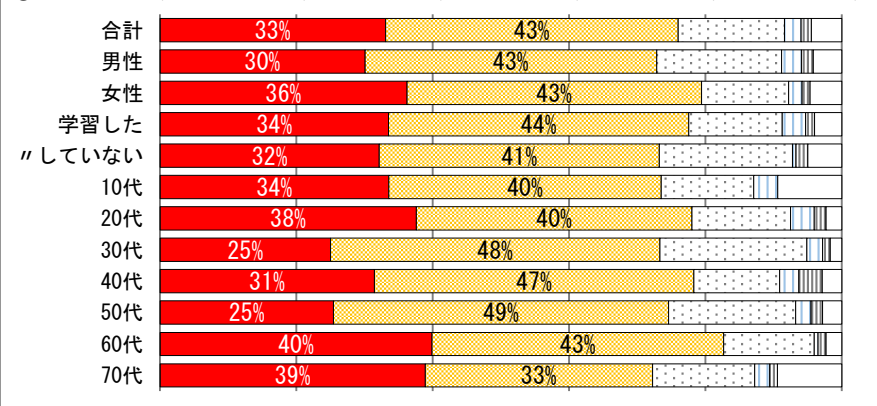
- 全体は44%、男性が40%、女性が48%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が49%、「行っていない」と回答した方が34%となっています。
- 年代別には、20代が55%で最も高く、次いで、10代が51%となっています。

図7-4 介護や孤独死、地場産業の担い手不足など、超高齢社会に関すること



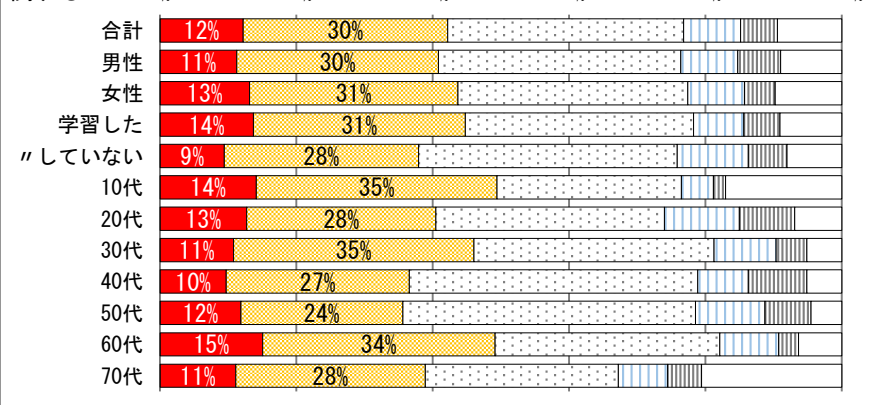
- 全体は82%、男性が83%、女性が83%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が85%、「行っていない」と回答した方が79%となっています。
- 年代別には、60代が92%で最も高く、次いで、20代が86%となっています。

図7-5 災害の危険性に関する理解や共助体制など、防災に関すること



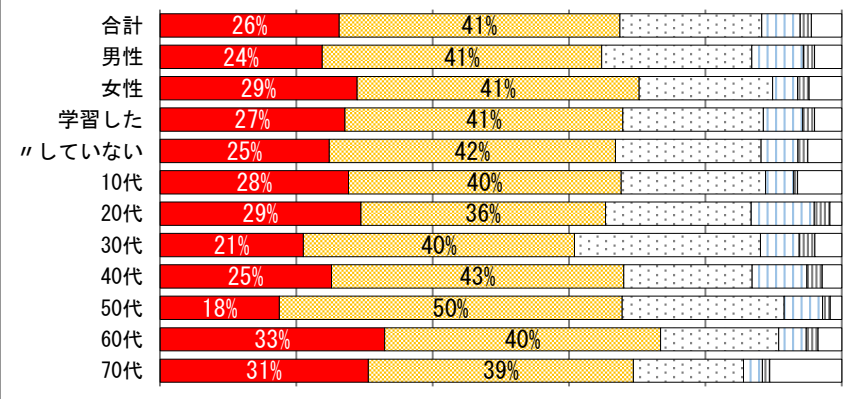
- 全体は76%、男性が73%、女性が79%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が78%、「行っていない」と回答した方が73%となっています。
- 年代別には、60代が83%で最も高く、次いで、20代、40代が78%となっています。

図7-6 女性の人権尊重や社会進出の促進など、男女平等参画に関すること



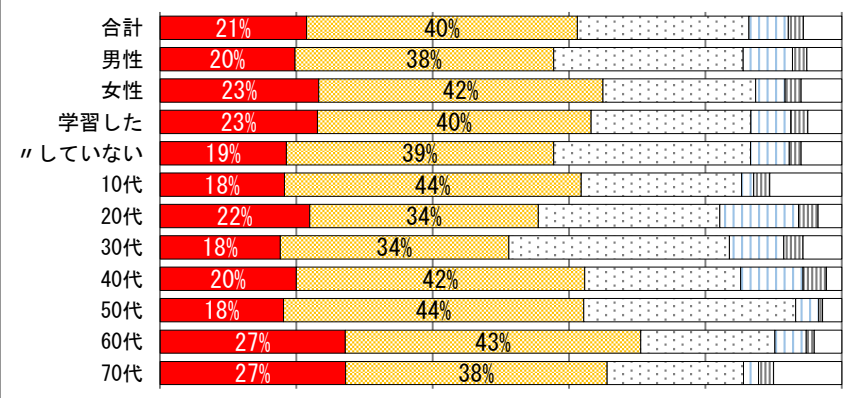
- 全体は42%、男性が41%、女性が44%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が45%、「行っていない」と回答した方が37%となっています。
- 年代別には、10代、60代が49%で最も高く、次いで、30代が46%となっています。

図7-7 犯罪や交通事故、疾病など、安全・安心な暮らしに関すること



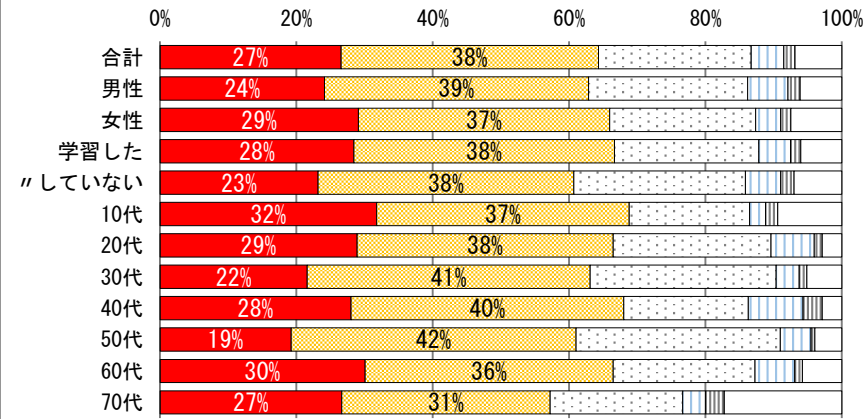
- 全体は67%、男性が65%、女性が70%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が68%、「行っていない」と回答した方が67%となっています。
- 年代別には、60代が73%で最も高く、次いで、70代が70%となっています。

図7-8 悪質な販売方法や特殊詐欺など、消費者教育に関すること



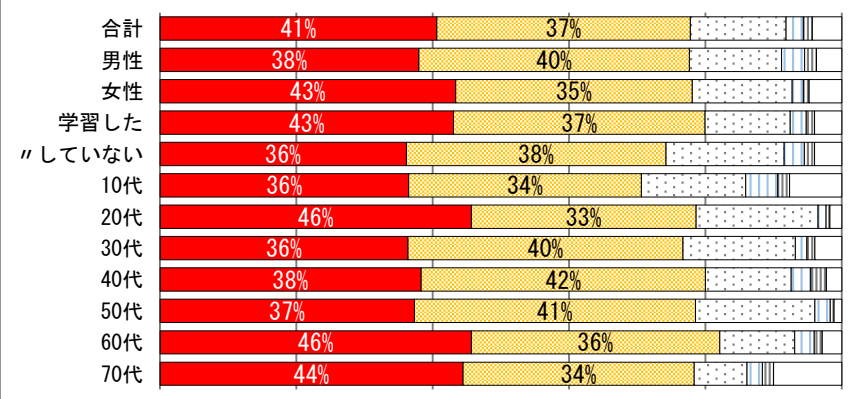
- 全体は61%、男性が58%、女性が65%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が63%、「行っていない」と回答した方が58%となっています。
- 年代別には、60代が70%で最も高く、次いで、70代が65%となっています。

図7-9 児童虐待やプライバシーの侵害など、人権に関すること



- 全体は65%、男性が63%、女性が66%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が66%、「行っていない」と回答した方が61%となっています。
- 年代別には、10代が69%で最も高く、次いで、40代が68%となっています。

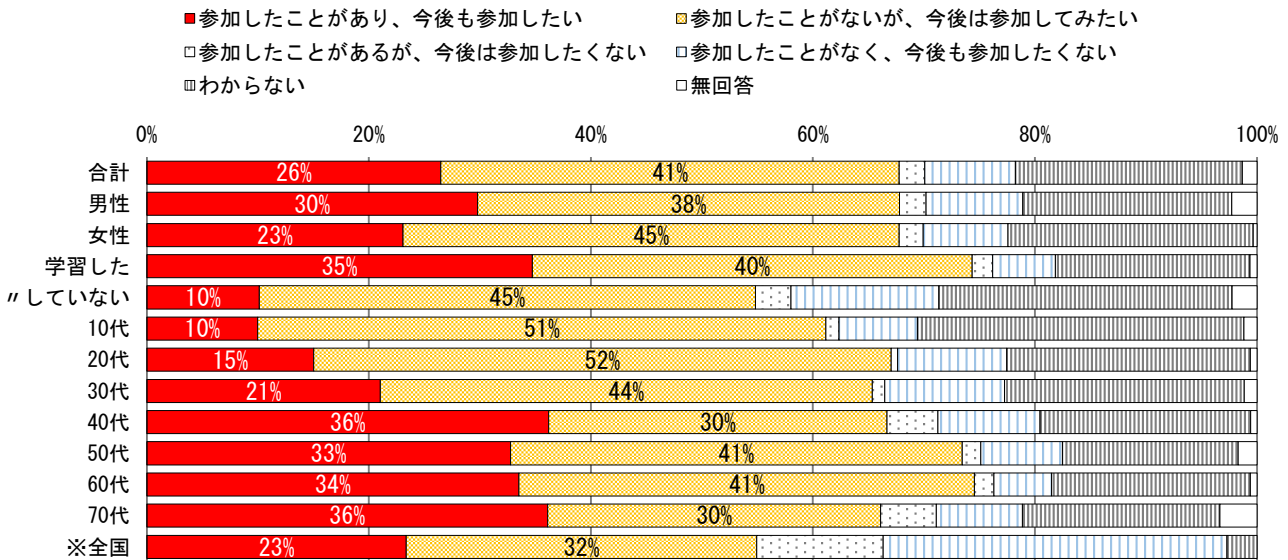
図7-10 障がい者や高齢者などが暮らしやすいまちづくりに関すること



- 全体は78%、男性、女性ともに78%となっています。
- 「生涯学習を行った」と回答した方が80%、「行っていない」と回答した方が74%となっています。
- 年代別には、60代が82%で最も高く、次いで、40代が79%となっています。

## (8) 学校支援についての意識

図8 地域にある学校を支援する活動に参加したいか



- 地域にある学校を支援する活動に参加したい割合（「参加过且今后想参加」と「参加过但不想今后参加」の合算値）は、全体では67%となっており、男性、女性ともに68%と、性別による差は見られません。
- 「生涯学習を行った」方の75%に比べ、「生涯学習をしていない」方が55%と低くなっています。
- 年代別には10代が61%と最も低く、60代以上では75%と最も高くなっています（図8）。
- 全国調査と比べると、「参加过且今后想参加」の割合に大きな差はないものの、「参加过但不想今后参加」割合が高くなっています。

## (9) 今後学びたい内容

図9-1 今後学びたい内容(全体)

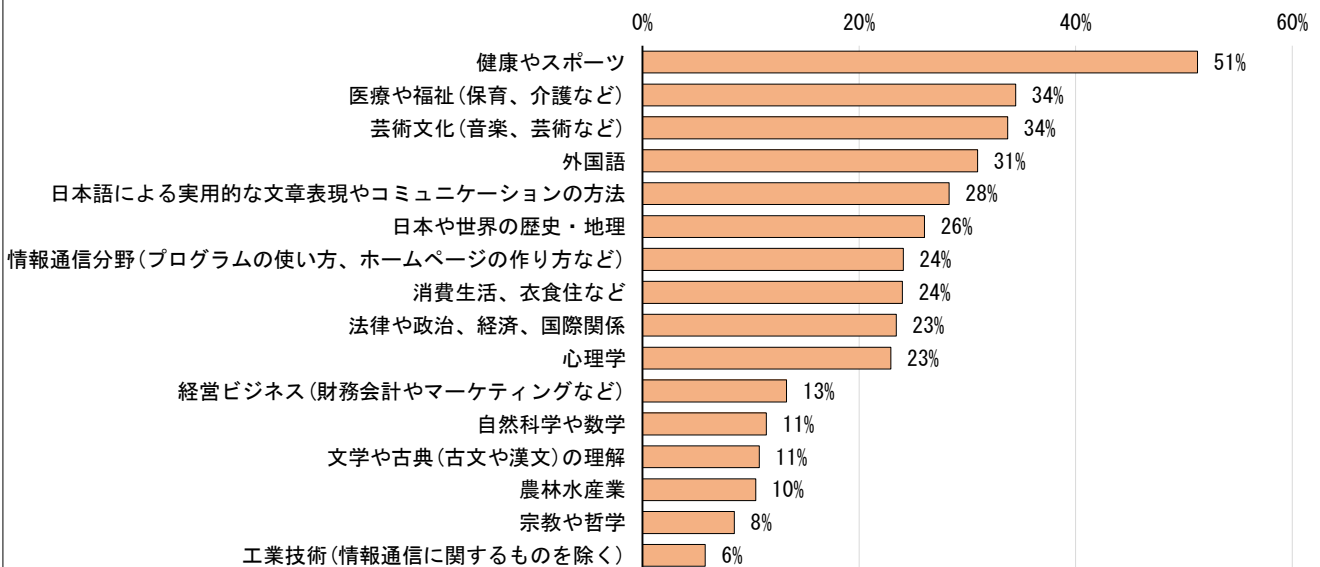


図9-2 今後学びたい内容(男性)

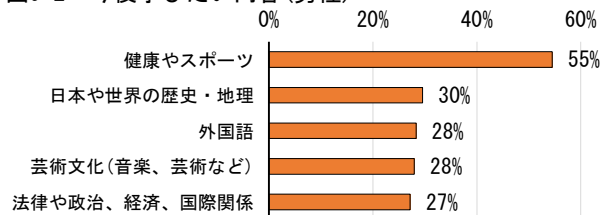
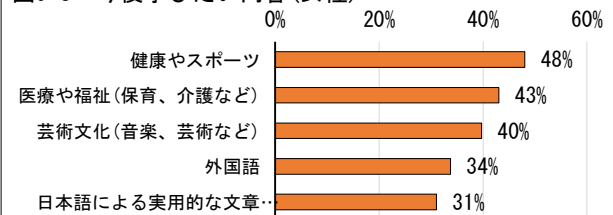
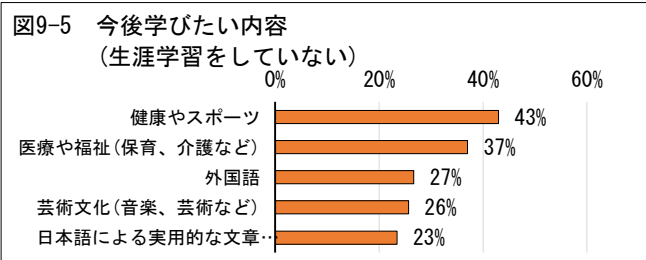
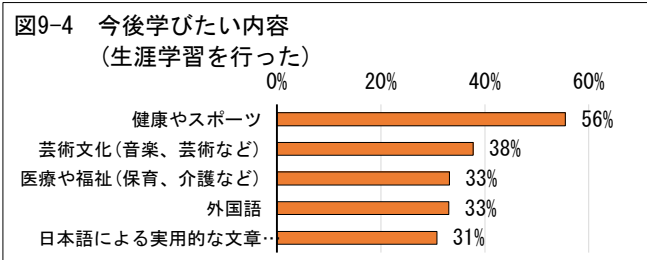


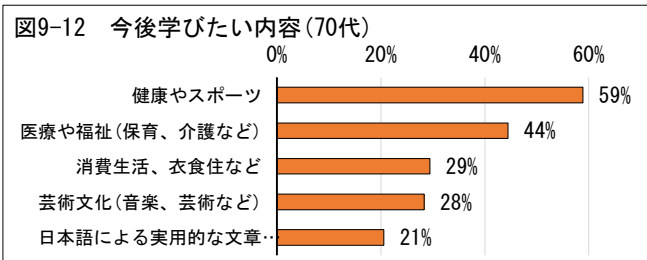
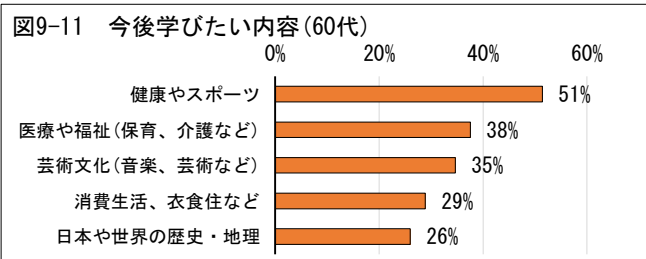
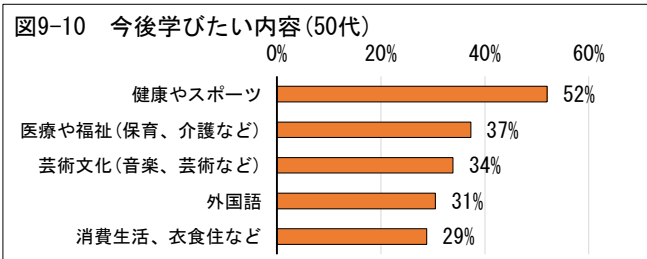
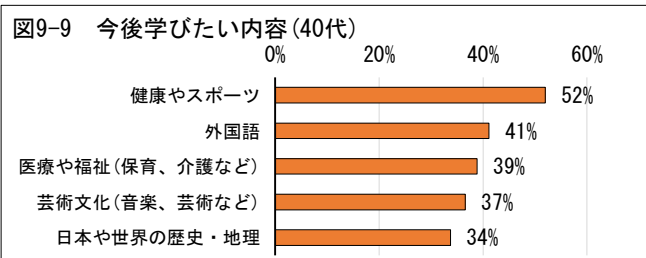
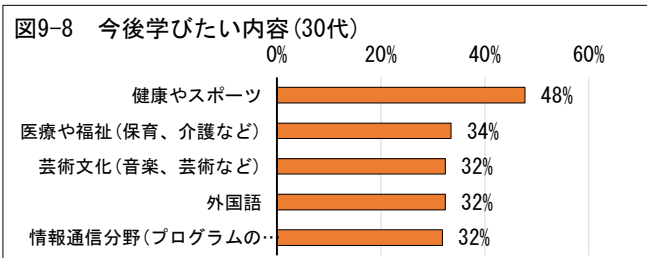
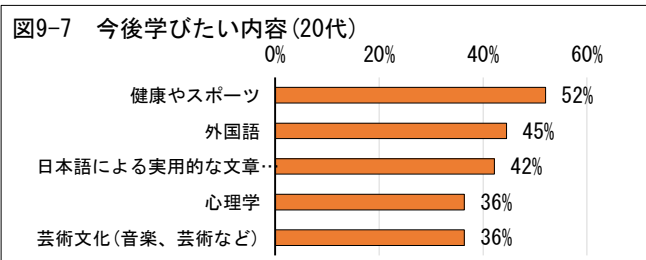
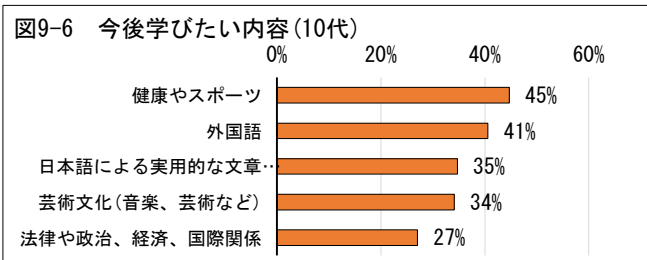
図9-3 今後学びたい内容(女性)



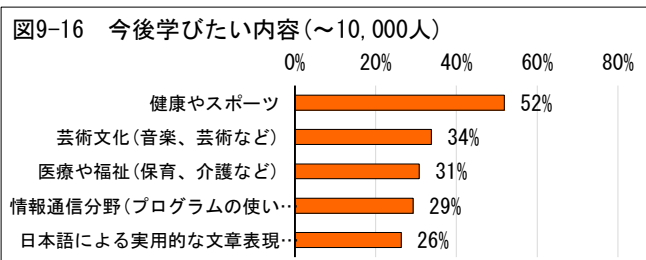
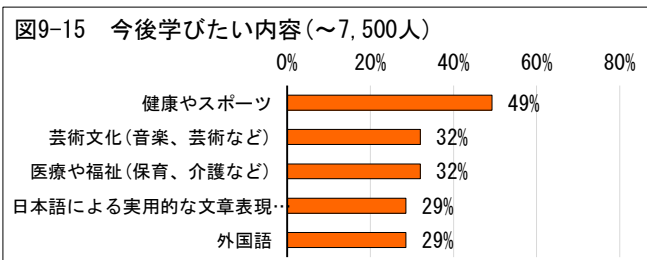
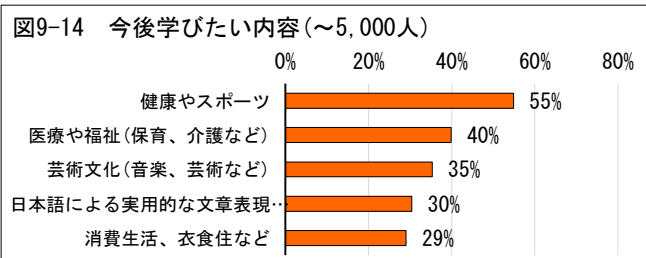
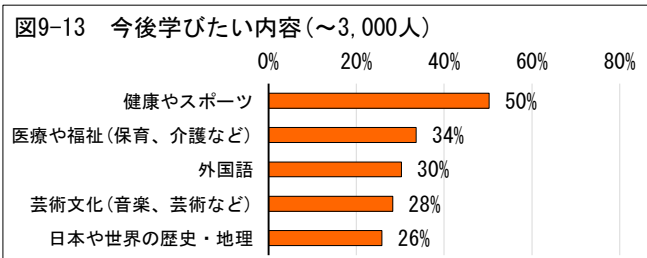
- 性別では、女性よりも男性の方が「健康やスポーツ」が高く、次いで、男性は「日本や世界の歴史・地理」の割合が高く、女性は「医療や福祉(保育、介護など)」の割合が高くなっています（図9-2～9-3）。

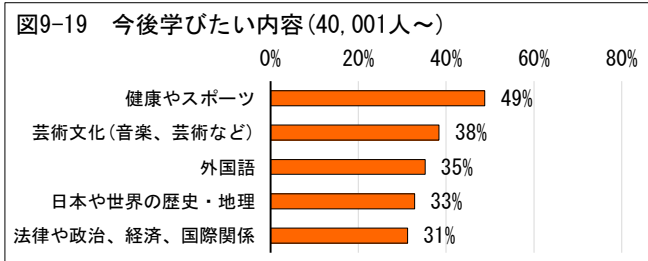
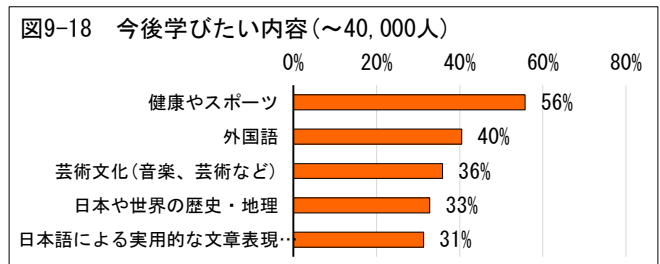
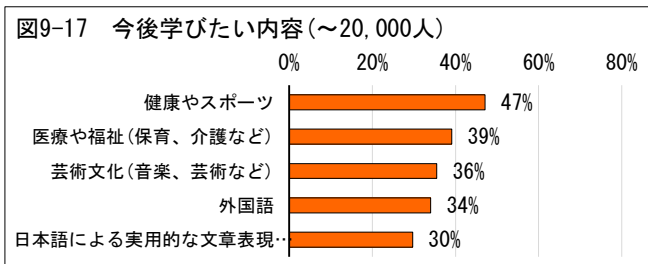


○ 「生涯学習を行った」方が「生涯学習をしていない」方に比べ、「健康やスポーツ」が高く、次いで、「生涯学習を行った」方は、「芸術文化(音楽、芸術など)」の割合が高く、「生涯学習をしていない」方は、「医療や福祉(保育、介護など)」の割合が高くなっています(図9-4～9-5)。



○ 年代別に見ると、どの年代も「健康やスポーツ」が高く、これを除くと、10～20代と40代は「外国語」、30代と50～70代は「医療や福祉(保育、介護など)」が高くなっています(図9-6～9-12)。





○ 人口規模別では、どの規模も「健康やスポーツに関する内容」が最も高く、これを除くと、5,000人以下と10,000～20,000人では「医療や福祉(保育、介護など)」、5,001～7,500人と40,001人以上では、「芸術文化(音楽、芸術など)」、20,001人～40,000人では「外国語」に関する割合が高くなっています(図9-13～19)。

## 【調査に関する生涯学習審議会委員の意見等】

### ◎ 調査結果について

- 調査結果には、今後、子どもたちとの関わりの中で、学校を支援する活動に参加したいとの回答が概ね6～7割あり、教育課程を軸に、体験や出会いを工夫して取り組んでいくことが大切だと感じた。
- 入口が「趣味的なもの」でも、それが継続されることによって社会に還元される形が生まれていくと思う。その仕組みや仕掛けをどうつくっていくかが生涯学習振興行政の役割ではないか。
- 第3次構想の中で、視点1、2、3とあるが、視点2に「子どもたちの学びを上げ支える」ということがある。視点1の「道民の学びを行動へ繋げる」という行動の先の大きな部分が、「子どもたちの学びを上げて支える」という行動に繋がっていくと、たくさんのお年寄りも積極的に学んでいきたい、生涯学び続けたい、それが幸せなんだという思いと行動が、次の世代の子供たちに広がっていくと思う。

### ◎ 年代について

- 「(6)地域の生涯学習に対する意識」の回答は、どの年代においても「健康・スポーツ」が圧倒的に多い。身体的な健康と精神的な健康、心身ともにバランスのとれた健康が求められている。
- 「(6)地域の生涯学習に対する意識」の回答は、若い世代がどの項目においても少ない。その理由のひとつは、専業主婦が少なくなったこと。40代半ばくらいまで働きながら、子育てもしている。でも、その世代の人たちは、切実に子育ての悩みをもっているのだから、学ぶ場所があればいいなと思っている。若い人たちを巻き込んで、自助をやりながら、ニーズに応じていくためには、今までと全く別の仕組みが必要だと思う。

### ◎ 今後の調査に向けて

- 「(2)学びの場所」の回答項目に「地域活動」という言葉を入れたほうがよい。地域活動を通じての学習というのは、とても大きいと思う。
- 「(6)地域の生涯学習に対する意識」の回答項目に、子育てや教育、起業、まちづくり等の項目を追加したほうが、時代に合っていると思う。
- 「(8)学校支援についての意識」の質問項目に、「地域の中で子育ての何かに参加したいと思うか」、「ボランティアとして地域に還元したいか」というような、自分が参加するならどのようなことかという、還元型のものがあるとよいと思う。

## 2 道内市町村における生涯学習推進体制の整備状況

### ◆ 調査の概要

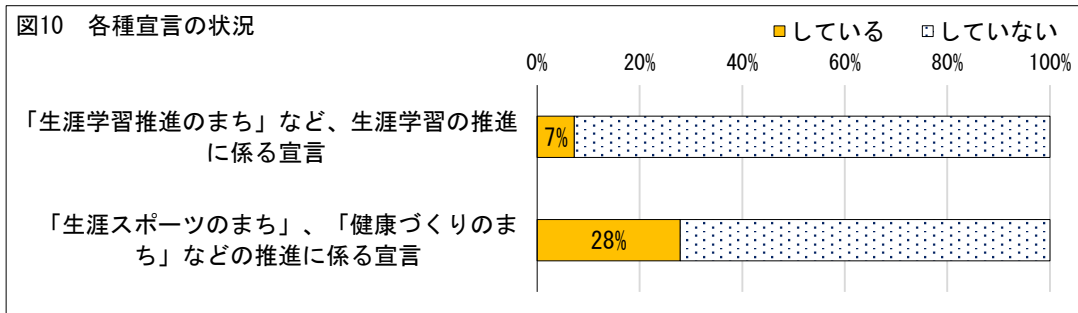
- ・ 調査目的：市町村における生涯学習の推進体制の整備状況の把握
- ・ 調査期間：平成28年3月
- ・ 調査対象：道内市町村（179市町村）
- ・ 回収率：98.3%

### ◆ 調査の項目

- I 各種宣言について
  - 1 「生涯学習推進のまち」など、生涯学習の推進に係る宣言
  - 2 「生涯スポーツのまち」、「健康づくりのまち」などの推進に係る宣言
- II 各種構想・計画の策定状況について
  - 1 生涯学習の推進に向けた構想・計画（基本構想・基本計画等）
  - 2 社会教育の推進に向けた構想・計画（中期計画・単年度計画等）
  - 3 スポーツ活動の推進に向けた構想・計画
  - 4 文化芸術活動の推進に向けた構想・計画
  - 5 読書活動の推進に向けた構想・計画
  - 6 その他の構想・計画等
- III 生涯学習推進に係る附属機関・外部組織等の設置について
  - 1 生涯学習審議会
  - 2 社会教育委員の会議
  - 3 スポーツ審議会
  - 4 文化審議会
  - 5 その他の生涯学習推進に係る外部組織等
- IV 生涯学習推進に係る行政組織・体制等について
  - 1 生涯学習課、社会教育課等、教育委員会の所管部署
  - 2 首長部局で生涯学習を所管している場合の所管部署
  - 3 生涯学習推進本部・会議等、行政内の連携を促進する組織・会議等
  - 4 生涯学習推進センター等、調査・研究機関
- V 子供たちを支える生涯学習活動の取組について
  - 1 子供たちに対する自然体験、ボランティア等の体験活動の機会
  - 2 読書環境の整備や読書活動を支援する人材の育成などの取組
  - 3 子供たちが異年齢・異世代とつながる場などの居場所づくりの取組
  - 4 地域住民が学校教育や放課後活動を支援する取組
  - 5 望ましいメディアへの接し方やコミュニケーションなど、子供たちの今日的な課題を学ぶ機会
  - 6 女性の視点を生かした子育てや育児に関する学習の機会
  - 7 アウトリーチ型の家庭教育・子育て相談などの取組
- VI 現代的課題等に関する学習機会について
  - 1 環境に関する学習・地域の自然環境やその保全、「木育」など
  - 2 食に関する学習・「食育」や食をとおした地域の活性化など
  - 3 国際理解に関する学習・諸外国の人々とお互いの文化、習慣等の理解など
  - 4 超高齢社会に関する学習・生活習慣病の予防、日常の介護など
  - 5 防災に関する学習・自然災害等の危険性や安全な行動など
  - 6 男女平等参画に関する学習・女性の人権尊重やハラスメントなど
  - 7 安全・安心な生活に関する学習・疾病、犯罪、交通事故等の生命・健康や防犯ボランティアなど
  - 8 消費生活に関する学習・悪質商法、訪問販売、金融など
  - 9 人権に関する学習・ドメスティックバイオレンス、児童虐待、ネットトラブルなど
  - 10 障がい者福祉に関する学習・福祉制度や福祉のまちづくりなど
- VII 生涯学習推進上の課題について
  - 1 住民の生涯学習に対する意識やニーズの把握
  - 2 住民に対する生涯学習の普及・啓発
  - 3 行政職員に対する生涯学習の普及・啓発
  - 4 生涯学習担当職員の増員や予算の増額などの人的・物的整備
  - 5 生涯学習を推進する施設や設備の整備
  - 6 学習情報の提供や相談体制の整備
  - 7 生涯学習推進協議会等、生涯学習を推進する住民組織の整備・充実等
  - 8 生涯学習推進本部等、生涯学習を推進する行政内組織の整備・充実等
  - 9 学校・家庭・地域の連携の促進
  - 10 他の市町村にはない特色のある事業、施策の創出
  - 11 生涯学習指導者やリーダー的人材の養成
  - 12 生涯学習を推進する団体・サークルの育成
  - 13 学習した成果を生かす場や方策の検討

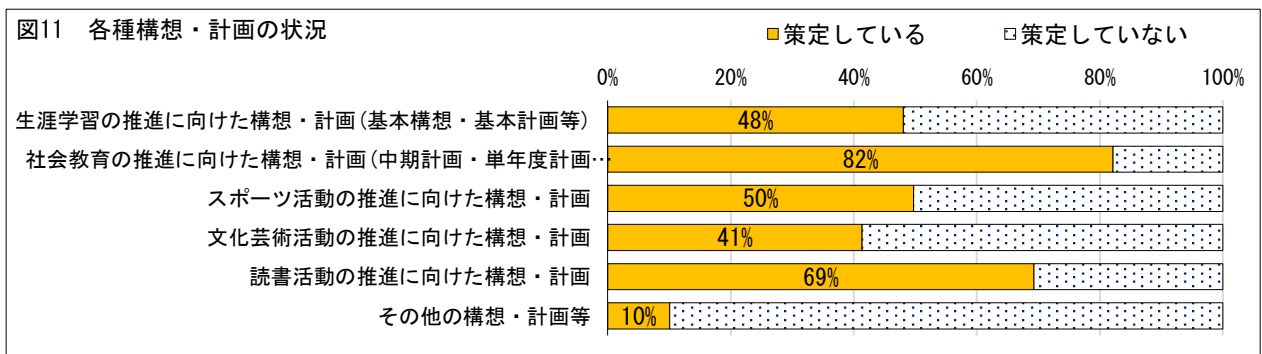


(1) 各種宣言



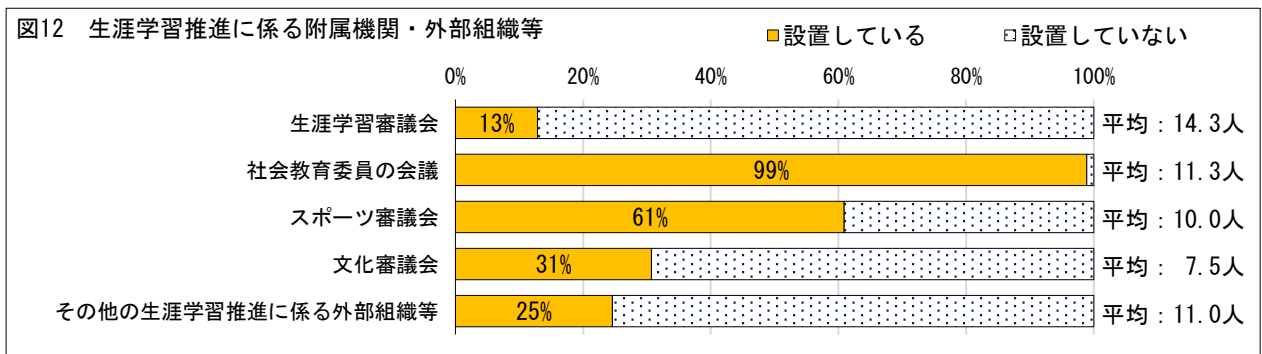
- 生涯学習に関する宣言を行っている市町村は7%、生涯スポーツや健康づくりなどに関する宣言を行っている市町村は28%となっています。

(2) 各種構想・計画の策定状況



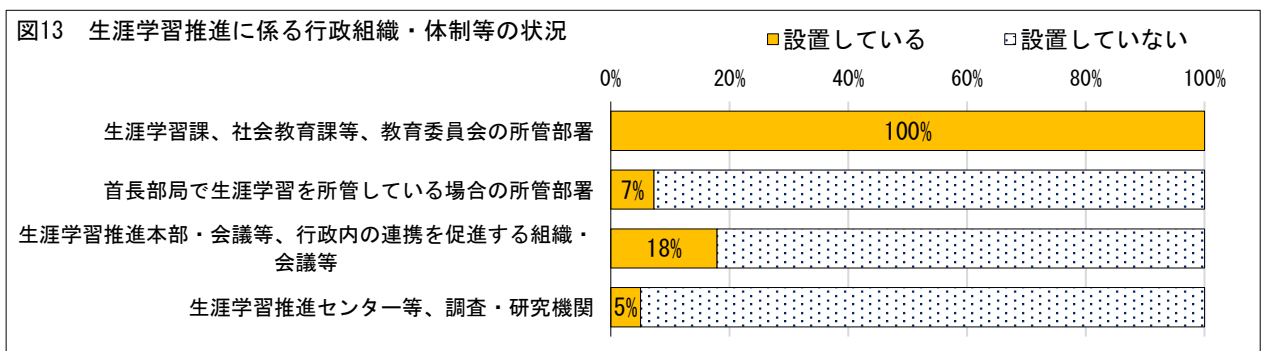
- 各種構想や計画の策定は、生涯学習の推進に関するものは48%(86市町村)、社会教育に関するものは82%(147市町村)、スポーツに関するものは50%(89市町村)、芸術文化に関するものは41%(74市町村)、読書活動に関するものは69%(124市町村)となっています。

(3) 生涯学習推進に係る附属機関・外部組織等の設置状況



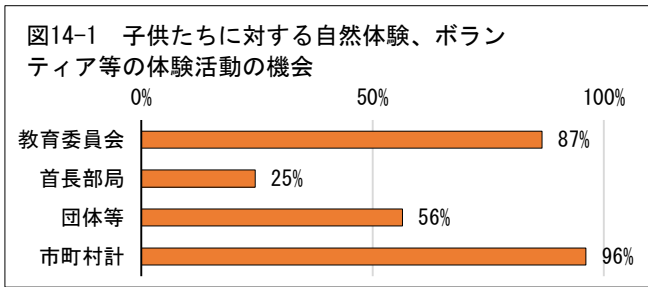
- 生涯学習推進に係る附属機関や外部組織の設置は、生涯学習審議会は13%(23市町村)、社会教育委員の会議は99%(177市町村)、スポーツ審議会は61%(109市町村)、文化審議会は31%(55市町村)となっています。

(4) 生涯学習推進に係る行政組織・体制等の状況

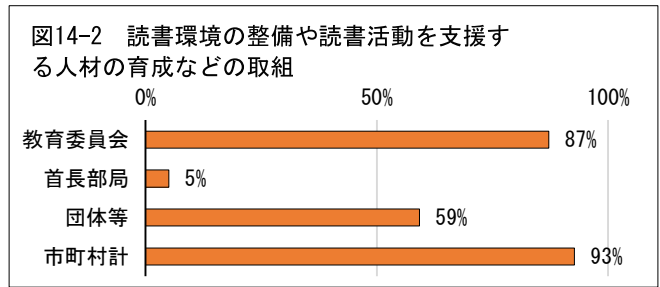


- 生涯学習を所管する行政組織は、全ての市町村で整備されており、首長部局で生涯学習を所管する組織が設置されているのは7%(13市町村)となっています。

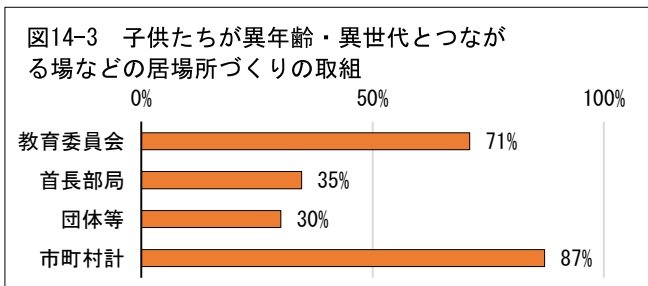
(5) 子供たちを支える生涯学習活動の取組の状況



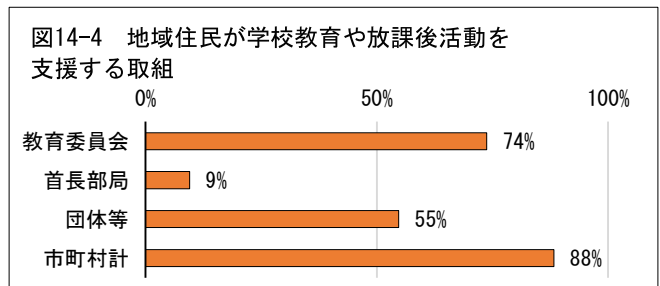
○ 教育委員会では87% (155市町村)、首長部局では25% (44市町村)、団体等では56% (101市町村)が体験活動の機会を提供しています。



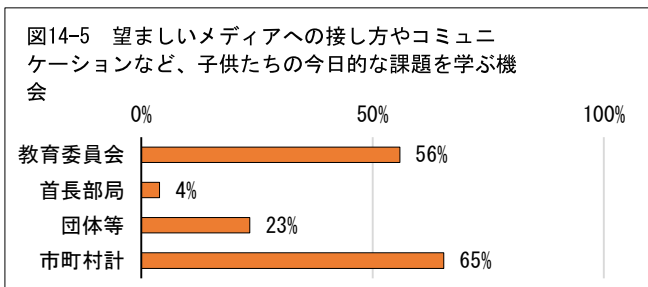
○ 教育委員会では87% (156市町村)、首長部局では5% (9市町村)、団体等では59% (106市町村)が読書活動の推進に取り組んでいます。



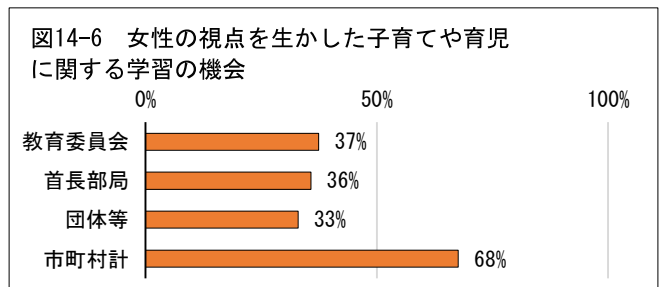
○ 教育委員会では71% (127市町村)、首長部局では35% (62市町村)、団体等では30% (54市町村)が子どもたちの居場所づくりに取り組んでいます。



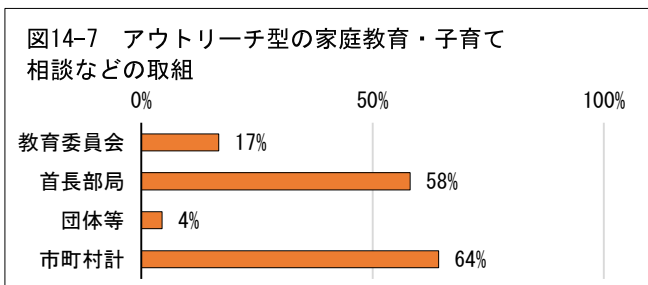
○ 教育委員会では74% (132市町村)、首長部局では9% (17市町村)、団体等では55% (98市町村)が学校支援の活動に取り組んでいます。



○ 教育委員会では56% (100市町村)、首長部局では4% (7市町村)、団体等では23% (42市町村)が子どもたちのメディアへの接し方などを学ぶ機会を提供しています。

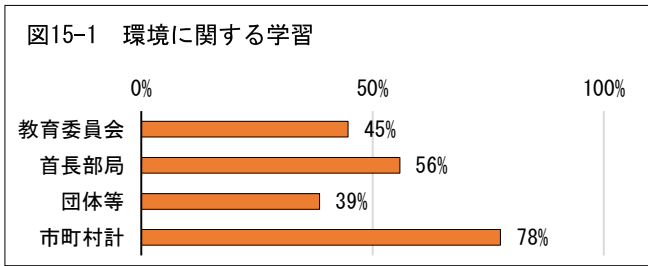


○ 教育委員会では37% (67市町村)、首長部局では36% (64市町村)、団体等では33% (59市町村)が女性の視点を生かした子育てや育児を学ぶ機会を提供しています。

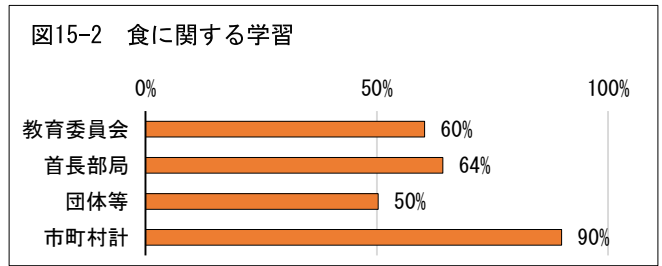


○ 教育委員会では17% (30市町村)、首長部局では58% (104市町村)、団体等では4% (8市町村)がアウトリーチ型の家庭教育・子育て相談などに取り組んでいます。

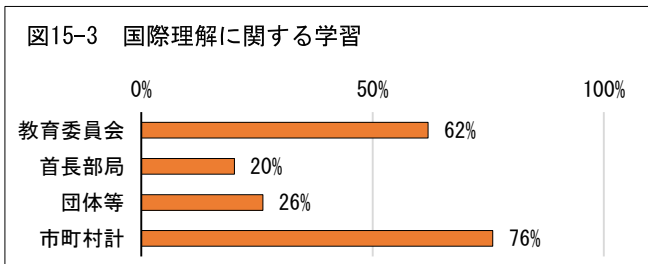
(6) 現代的課題等に関する学習機会の状況



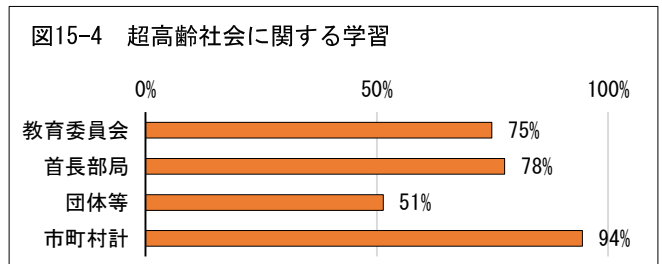
○ 教育委員会では45% (80市町村)、首長部局では56% (100市町村)、団体等では39% (69市町村)が環境に関する学習機会を提供しています。



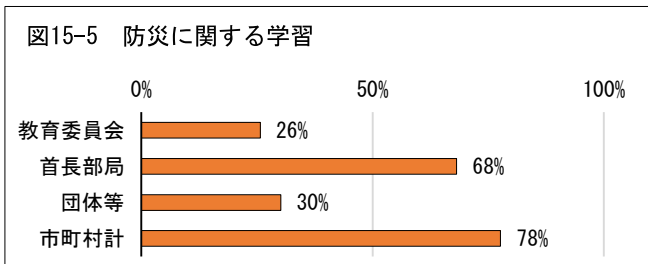
○ 教育委員会では60% (108市町村)、首長部局では64% (115市町村)、団体等では50% (90市町村)が食に関する学習機会を提供しています。



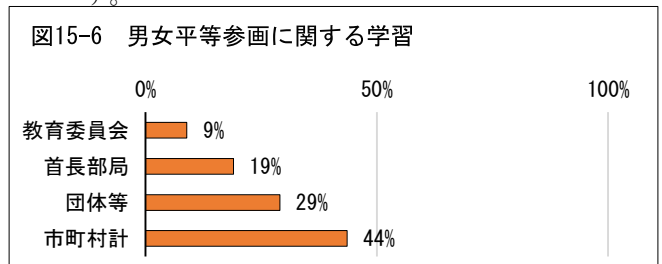
○ 教育委員会では62% (111市町村)、首長部局では20% (36市町村)、団体等では26% (47市町村)が国際理解に関する学習機会を提供しています。



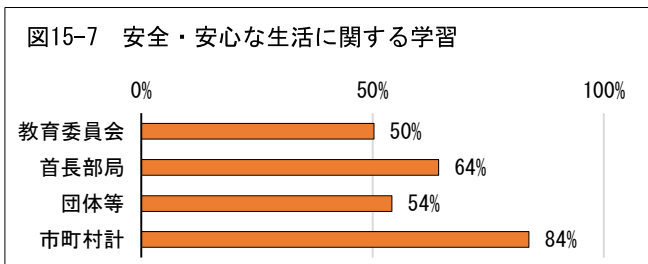
○ 教育委員会では75% (134市町村)、首長部局では78% (139市町村)、団体等では51% (92市町村)が超高齢社会に関する学習機会を提供しています。



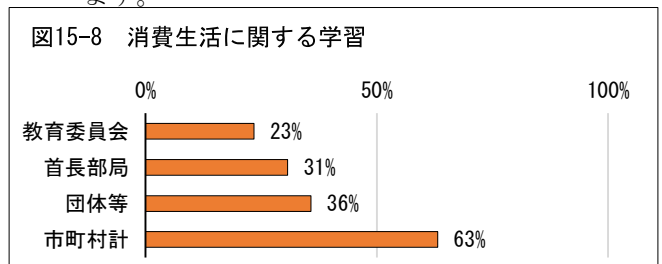
○ 教育委員会では26% (46市町村)、首長部局では68% (122市町村)、団体等では30% (54市町村)が防災に関する学習機会を提供しています。



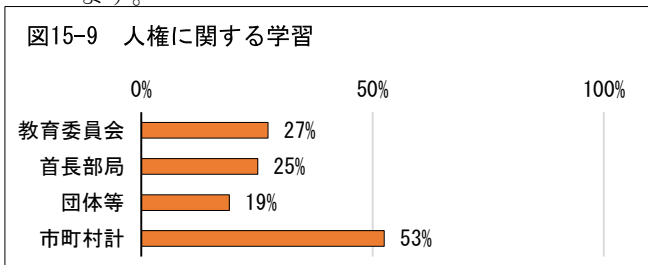
○ 教育委員会では9% (16市町村)、首長部局では19% (34市町村)、団体等では29% (52市町村)が男女平等参画に関する学習機会を提供しています。



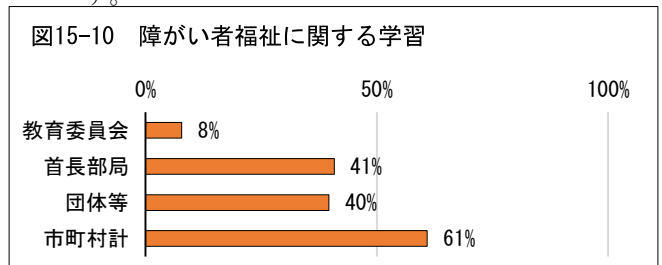
○ 教育委員会では50% (90市町村)、首長部局では64% (115市町村)、団体等では54% (97市町村)が安全・安心な生活に関する学習機会を提供しています。



○ 教育委員会では23% (42市町村)、首長部局では31% (55市町村)、団体等では36% (64市町村)が消費生活に関する学習機会を提供しています。



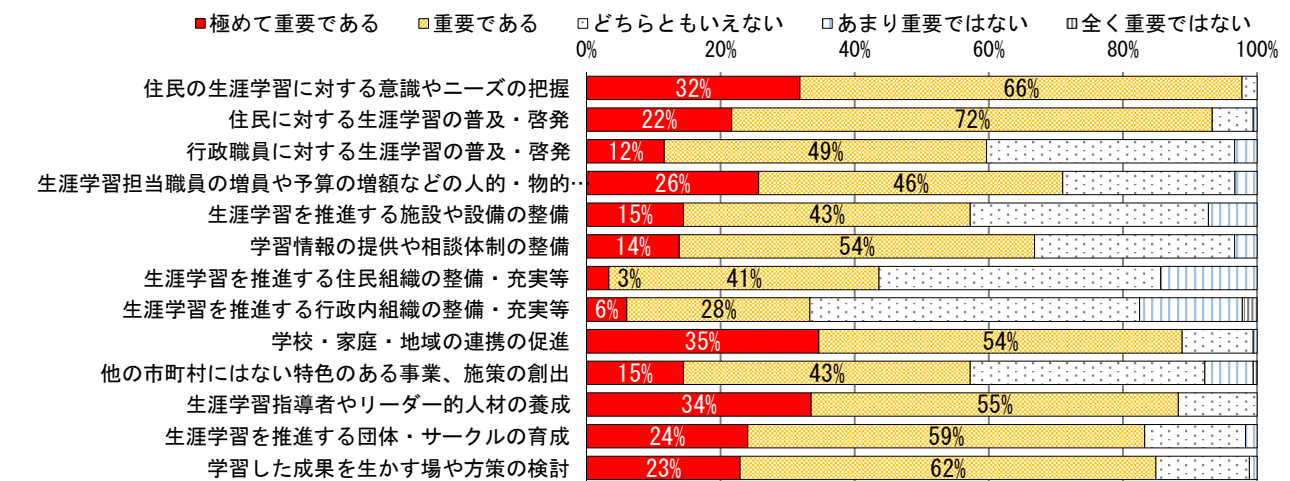
○ 教育委員会では27% (49市町村)、首長部局では25% (45市町村)、団体等では19% (34市町村)が人権に関する学習機会を提供しています。



○ 教育委員会では8% (14市町村)、首長部局では41% (73市町村)、団体等では40% (71市町村)が障がい者福祉に関する学習機会を提供しています。

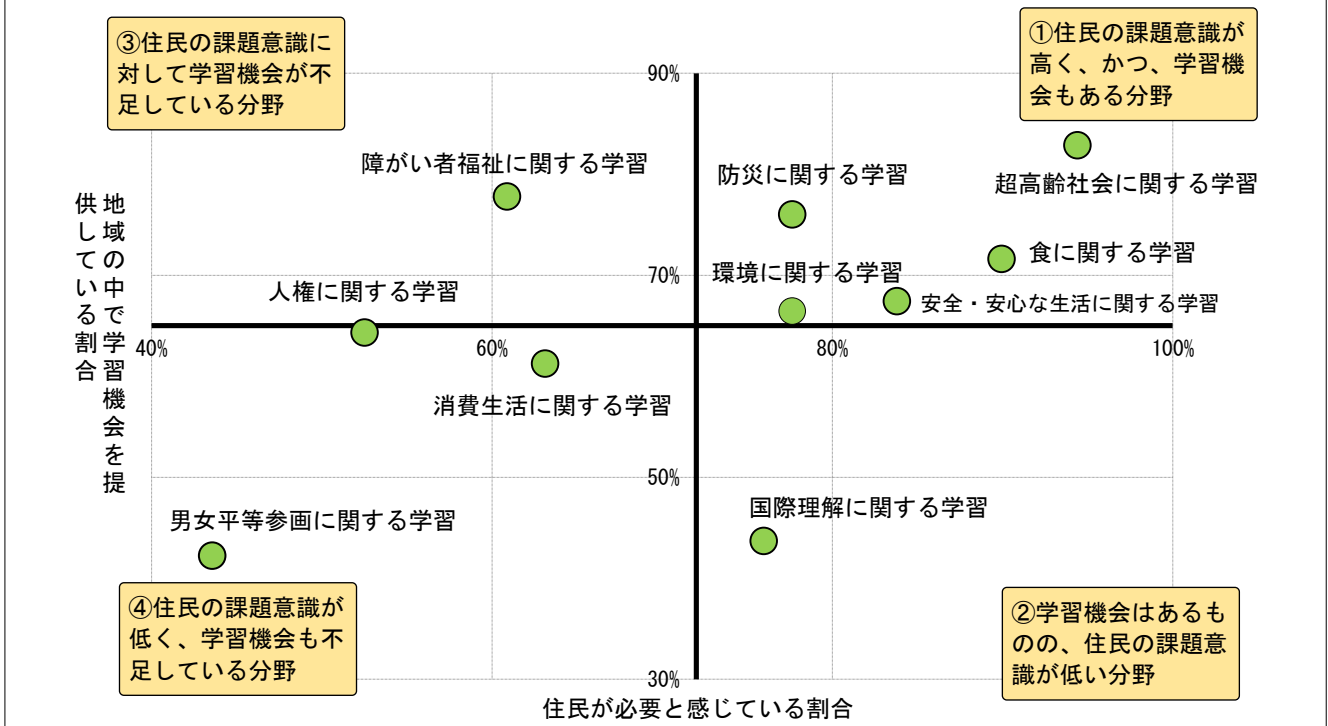
(7) 生涯学習推進上の課題

図16 生涯学習推進上の課題



- 生涯学習推進上の課題は、「極めて重要である」と「重要である」を合わせると、「住民の生涯学習に対する意識やニーズの把握」が98%と最も高く、次いで「住民に対する生涯学習の普及・啓発」が94%、さらに、「学校・家庭・地域の連携の促進」と「生涯学習指導者やリーダー的人材の育成」が89%となっています。「極めて重要である」との回答を見ると、「学校・家庭・地域の連携の促進」が34%と最も高く、次いで「生涯学習指導者やリーダー的人材の育成」が34%となっています。

図17 住民の課題意識と学習機会



- Iの住民の意識調査(P9~11)とクロスして見ると、「高齢化社会」、「防災」、「食」、「環境」、「安全・安心な生活」は、住民の課題意識が高く、かつ、学習機会もある分野であり、「国際理解」は学習機会はあるものの、住民の課題意識が低いテーマと言えます。

- また、「障がい者福祉」、「人権」は、住民の課題意識が比較的高いものの、学習機会の提供状況が比較的に少なく、「消費生活」や「男女平等参画」は住民の課題意識が比較的低く、学習機会の提供状況も低いテーマとなっています。

### 3 北海道教育委員会の主な生涯学習振興施策

#### (1) 学習機会の提供

##### 【問合せ先】

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル9階  
道民カレッジ事務局 011-204-5780

道民カレッジは、産学官が連携して、道内各市町村で行われている様々な学習機会を系統化し、道民が自らの意思によって学び、自立した北海道の創造に寄与する人材育成を目的とし、「学びたいという意思」を唯一の入学資格とする生涯学習の学園で、だれでも、いつでも入学できます。



ロゴマーク「マナブー」

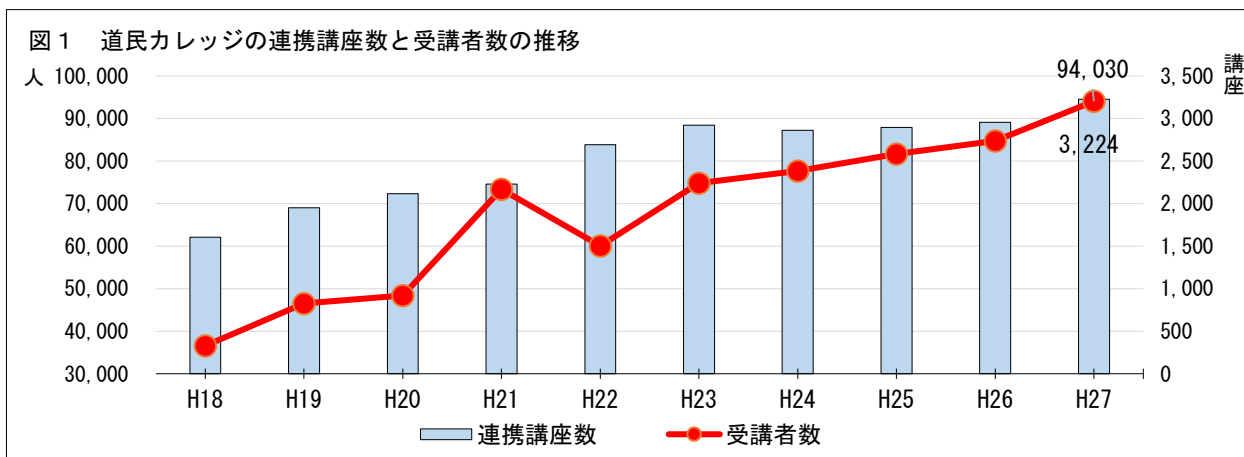
##### 【講座の受講】

- ・ 「連携講座」を受講するには連携講座一覧の中から、興味・関心のある講座を選び、申込先に直接お申し込み下さい。なお、講座によっては、受講料や材料費など、有料の場合があります。
- ・ 「ほっかいどう学大学インターネット講座」は、ホームページで配信している大学インターネット講座を視聴し、レポートを提出することで、1講座につき必修1単位を認定します。

##### 【称号の取得】

- ・ 「大学インターネット講座」、「地域活動推進講座」、「指定講座」の中からの6単位が必修であり、そのほかに連携講座の中から個々の興味・関心のある講座を受講して下さい。所定の単位に達しましたら、道民カレッジ事務局に申請して下さい。

道民カレッジ学士：100単位 道民カレッジ修士：200単位 道民カレッジ博士：300単位



10,000単位取得「道民カレッジマイスター」(H28.6)



「大学インターネット講座」の様子

##### 【今後の取組】

さらに多様なニーズに応じた学習機会が提供できるよう、幅広い連携先を確保するとともに、学んだ成果を生かす講座づくりや仕組みづくりを進めます。

## (2) 家庭教育支援の推進

### 【問合せ先】

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館7階 社会教育・読書推進グループ 011-204-5744

### 【家庭教育「学びカフェ」推進事業】

地域における家庭教育や子育てに関する学習・相談機会の充実に向けては、子育てに不安や悩みを持つ孤立しがちな保護者や子育てへの関心は高いが学ぶ余裕のない保護者等に対しても十分な支援を行うための仕組みをつくる必要があります。

本事業は、地域において保護者同士の日常的な学び合いを促す役割を担う「家庭教育ナビゲーター」を養成することにより、保護者が日常生活はもとより、子育てサロンや親子を対象とした行事、子育てサークル、学校・幼稚園・保育所等、子育てサークル、乳幼児健診など、多様な機会の中で交流しながら子育てについて情報交換したり、不安や悩みを相談することができる機会（「学びカフェ」）を提供することを目指しています。

#### ○ 家庭教育ナビゲーターの養成(平成29年2月末現在)

平成27年度	242人
平成28年度	548人
計	790人



「滝子連子どもまつり」の喫茶コーナー(滝上町)  
(保護者同士が子育てについて語り合う場)

#### ○ 学びカフェの取組例

- ・ 地域子育て支援拠点で親子一緒に遊ぶ中での保護者同士の情報交換
- ・ 乳幼児健診や就学時健診、図書館行事
- ・ 学校や幼稚園・保育所等の保護者会、地域の季節行事 など

### 【北海道家庭教育サポート企業等制度】

本制度は、家庭教育を支援するための職場環境づくりに取り組む企業等と道教委が協定を結び、相互に協力して、本道における家庭教育の一層の推進を図るための取組です。

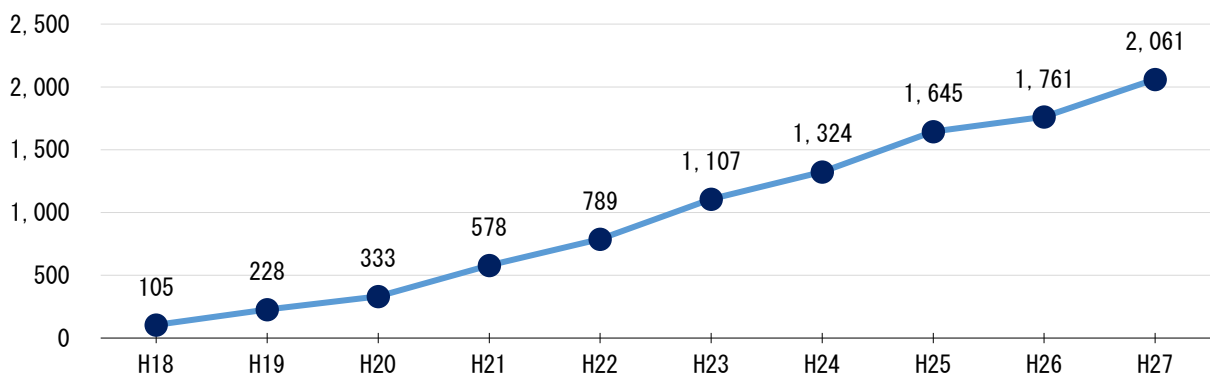
#### 〈企業等の取組〉

- 1 職場の子育て環境づくり
- 2 職場見学・職場体験の実施
- 3 地域行事への協力・支援
- 4 学校行事への参加促進
- 5 生活リズム向上の取組
- 6 「道民家庭の日」等の普及



勤務シフトに合わせた保育室の設置

図2 家庭教育サポート企業等の締結数(累計)



### 【今後の取組】

各市町村において家庭教育支援を担う地域人材の資質向上を図るとともに、北海道家庭教育サポート企業における子育て環境づくりや家庭教育にかかわる啓発等の取組を支援します。

### (3) 望ましい生活習慣の定着

#### 【問合せ先】

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館7階 社会教育・読書推進グループ 011-204-5744

道教委では、家庭での食事や睡眠などの基本的な生活習慣の乱れに起因する課題に対し、「朝食をとらずに登校する子をゼロに」を目標に掲げ、学校・家庭・地域と連携した「早寝早起き朝ごはん」運動を展開しています。

#### 【「子ども朝活」事業】

平成26年度から3年間で128市町村において、長期休業中に午前中の早い時間帯を活用し、地域住民との連携の下、学習や体験活動などに取り組んでいます。

#### 【生活リズムチェックシート】

子どもが自分の生活を見つめ、自立的に望ましい生活習慣を身に付けることを支援するツールとして、学校や家庭で活用されています。

#### 【「どさんこアウトメディアプロジェクト」】

子どもたちの携帯電話やスマートフォンの所持率が高まり、健康面、学習面への影響が心配されることから、PTAや校長会、企業等と連携し、毎月第1・第3日曜日の「ノーゲームデー」の設定・普及、保護者や児童・生徒を対象とした学習機会の提供などに取り組んでいます。



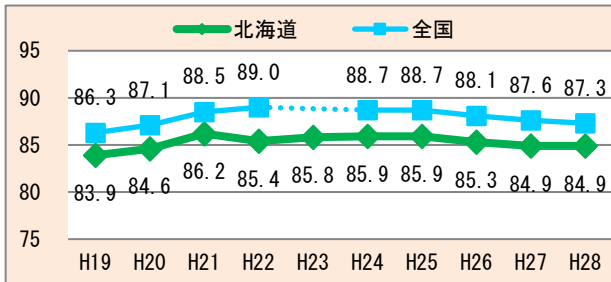
「早寝早起き朝ごはん」運動  
北海道版シンボルマーク



「どさんこアウトメディアプロジェクト」イメージマーク

図3 毎日朝食を食べている児童生徒の割合(%) (全国学力・学習状況調査から)

<小学校>



<中学校>

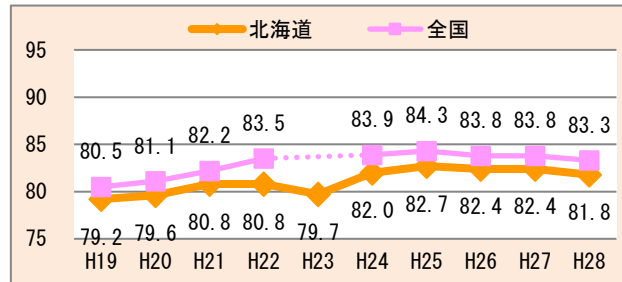
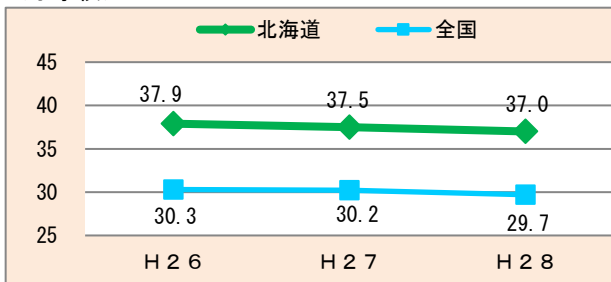
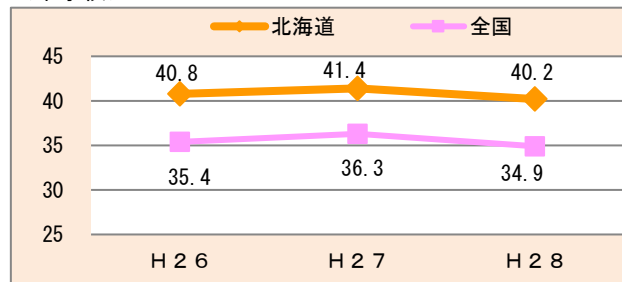


図4 普段、1日当たり2時間以上、テレビゲームをする児童生徒の割合(%) (全国学力・学習状況調査から)

<小学校>



<中学校>



「早おき・職場見学デー」(H28.7)



「子ども朝活」事業 (H27.7・安平町)



どさんこアウトメディアプロジェクト「高等学校生徒会フォーラム」(H28.11・ネイバル砂川)

#### 【今後の取組】

子どもの望ましい生活習慣の定着は、学校、家庭、地域の連携が不可欠であることから、今後も、規則正しい食事、睡眠、運動等の必要性について普及啓発を図るとともに、学校、家庭、地域における電子メディアの利用のルールづくりが促進されるよう、PTA研修会やその他の機会を活用し、保護者や子どもたちを対象とした学習機会を提供していきます。

## (4) 読書活動の推進

### 【問合せ先】

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館7階 社会教育・読書推進グループ 011-204-5744

学校・家庭・地域で読書習慣の確立や読書活動の充実、市町村立図書館等や学校図書館における読書環境の整備・充実に向けた支援等に取り組んでいます。

### 【主な取組】

#### ○ 学校・家庭・地域における読書活動の推進

- ・ 学校図書館の整備充実及び各教科等における学校図書館の計画的な活用の促進
- ・ ビブリオバトルなどの手法を活用した、児童生徒が読書に親しむ機会を増やす取組の普及
- ・ 道立図書館による学校図書館の運営相談や「学校ブックフェスティバル」等の実施
- ・ 親子で読書に取り組む「家読」などの推進
- ・ 市町村立図書館等と連携した地域における読み聞かせの会への支援

#### ○ 読書環境の整備・充実

- ・ 市町村における子ども読書活動推進計画策定の促進
- ・ 道立図書館による市町村立図書館等への図書の出しや活動への支援、図書館未設置市町村への働きかけや情報提供等

#### ※ 道立図書館について 江別市文京台東町41(011-386-8521)

##### ◆ 図書館のセンターとして—図書館の図書館—

道内の図書館網のセンターとして、市町村立図書館の活動に協力し、併せて専門図書館、大学図書館等とも連携して、図書館活動を推進しています。

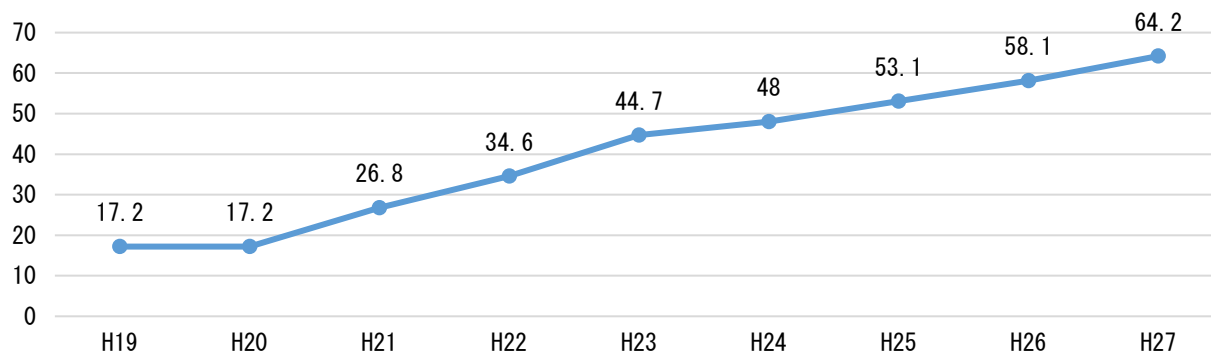
##### ◆ 参考図書館として—何でもわかる図書館—

道民の多様なニーズに対応できるよう、一般資料のほか比較的高度な調査研究に必要な資料等を整え、道民がこれらの資料等を利用できるサービスを提供しています。

##### ◆ 全域サービスの図書館として—道民みんなの図書館—

図書館未設置地域への支援、図書館情報システムの整備等により、いつでも、だれでも、どこからでも求められた資料や情報に対応できる図書館サービスを展開しています。

図5 道内の市町村における「子どもの読書活動推進計画」の策定状況



学校図書館に係る研修会の様子



ビブリオバトルの様子



道立図書館90周年まつりの様子

### 【今後の取組】

すべての道民にとって読書環境の充実につながるよう、市町村立図書館や学校等へのさらなる支援に努めます。



## (5) 体験活動の推進

### 【問合せ先】

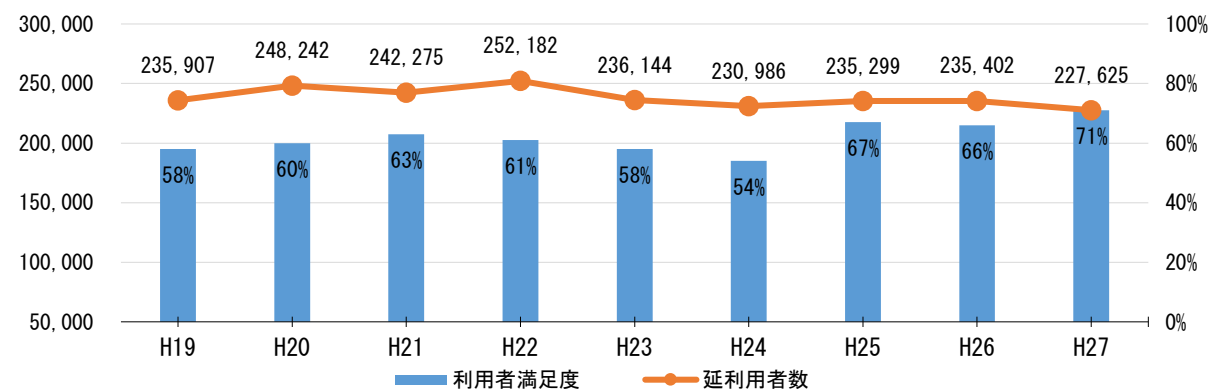
〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館7階 生涯学習推進・施設グループ 011-204-5742

### 【道立青少年体験活動支援施設ネイパル】

道教委では、子供たちの自然体験や社会体験、生活体験など、様々な体験活動を提供するため、道内6ヶ所に「道立青少年体験活動支援施設ネイパル」を設置しています。学校での利用だけでなく、大人の研修や家族・小グループでも利用いただけます。

<p>道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川</p> <p>◆ 「北海道子どもの国」内に立地。 石窯ピザや流しそうめん(夏季) など野外炊事プログラムが充実。</p> 	<p>道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川</p> <p>◆ 高速深川ICから車で1分。 2～4人部屋中心の宿泊室。 H29.4、野外炊事場がオープン。</p> 
<p>道立青少年体験活動支援施設ネイパル森</p> <p>◆ 秀峰駒ヶ岳の山麓に立地。 登山や大沼周辺のサイクリング、 ネイパル唯一の温泉がおすすめ。</p> 	<p>道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見</p> <p>◆ サロマ湖畔に立地。カヌーや いかだなどの海洋性の活動や 全天候型の野外炊事場が充実。</p> 
<p>道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄</p> <p>◆ 足寄の小高い丘に立地。 熱気球の搭乗体験や自然物を 使ったクラフトメニューが充実。</p> 	<p>道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸</p> <p>◆ 愛冠岬に立地し、野生の鹿が お出迎え。唯一の室内キャンプ ファイヤー設備は雨天時や冬場もOK。</p> 

図6 ネイパル利用者数と利用者満足度の推移



熱気球搭乗体験(ネイパル足寄)



カヌー体験(ネイパル北見)



雪山トレッキング体験(ネイパル深川)



ラフティング体験(ネイパル砂川)



低学年の木工作体験(ネイパル森)



国際交流体験(ネイパル厚岸)

## (6) 芸術・文化活動の推進

### 【問合せ先】

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課博物館グループ

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館7階 011-231-4111

道教委では、市町村や関係団体と連携を図りながら、青少年等の芸術文化活動へ参加する機会の活動支援、芸術鑑賞等の文化に触れる機会の充実を図るとともに、生涯を通じた文化活動の推進に取り組んでいます。

所管の道立美術館・博物館では、展覧会のほか、講演会や作品解説などの展覧会関連事業、ワークショップ、学校で学芸員が授業を行う「出前講座」などを行うとともに、授業や修学旅行などでの美術館・博物館の利用促進も図っています。

### 【各道立美術館の収集方針の柱】

近代美術館	北海道や日本近代の美術、エコール・ド・パリ、ガラス工芸、現代の美術
旭川美術館	道北の美術、木の造形
函館美術館	道南の美術、現代美術、東洋美術と書
帯広美術館	道東の美術、プリントアート、西洋の美術
三岸好太郎美術館	三岸好太郎の作品
釧路芸術館	写真・映像、自然をテーマとする芸術、地域と関連する芸術

### 【平成29年度各道立美術館・博物館の特別展覧会（予定）】

近代美術館	大原美術館展 映像ミュージアム2018	ファン・ゴッホと日本展	高倉健展	サマーミュージアム2017
旭川美術館	織田コレクション展 色と形のポリフォニー	上村松園・松篁・淳之展 猫まみれ展	サマーミュージアム2017 プレミアム・コレクション	アート・クイズ・ギャラリー
函館美術館	写実の美 昭和の洋画を切り拓いた若き情熱	猫まみれ展 田辺三重松展	高倉健展	
帯広美術館	山下清展	色彩(いろ)のちから	いのちのかたち	追悼特別展高倉健
三岸好太郎美術館	子どものための三岸好太郎展			
釧路芸術館	無言館 遺された絵画展	高倉健展	安野光雅の世界展	ももちゃん芸術祭
文学館	文学館・珠玉の300選 有島武郎の〈星座〉北海道に託した夢	「北方文芸」と道内同人誌の光芒	アントン・チェーホフの遺産	ファミリー文学館
北方民族博物館	草原と馬と牧畜民			
埋蔵文化財センター	発掘調査成果展	北の縄文	北海道遺跡百選10	

### 【移動美術展（ぐるっと美術館）の過去3年間の開催地域（会場）】

H26	十勝管内更別村（社会福祉センター）	十勝管内足寄町（足寄町民センター）
H27	上川管内剣淵町（絵本の館）	胆振管内登別市（市民会館）
H28	オホーツク管内網走市（市立美術館）	空知管内美唄市（市民会館）



H28 オホーツク管内網走市



H28 空知管内美唄市

【教育活動での利用】 ※近代美術館の例～予約など詳細は各美術館等のホームページをご覧ください。

- 1 展覧会の鑑賞：学校の授業などでの団体観覧は無料。希望に応じさまざまな作品解説も行います。
- 2 職場体験学習やインターンシップで、美術館の役割や学芸員の業務を体験できます。
- 3 美術情報コーナー（ARS）には、展覧会図録、芸術に関する図書、映像資料など閲覧可能です。

## (7) 文化財の保護・保存

### 【問合せ先】

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課文化財保護グループ

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館7階 011-231-4111

文化財は、北海道の歴史や文化の正しい理解に欠かせず、また、道民の共有財産であることから、文化財の保存及び活用のため、文化財の指定等を進めるとともに、文化財の現状把握、適切な管理・修理・整備、情報発信及び文化財に親しむ機会の提供など、継続した取組を行っています。

### 【文化財の調査・保存・活用の推進】

- 未指定文化財の調査、文化財の指定・登録等の推進、文化財の現状把握及び適切な管理・修理等
- 美術品等として価値のある古式銃砲や刀剣類の登録

### 【アイヌ民俗文化財の調査・保存・伝承活動の推進】

- アイヌ民俗技術に関する調査、ユーカラの翻訳・整理
- アイヌの基本的な生活用語伝統的な風俗慣習、民俗芸能の保存・伝承活動の推進

### 【文化財に関する多様な情報の発信と文化財に親しむ機会の提供】

- 「文化財まる知ナビ」など当課ホームページ等を活用した道内の文化財に関する多様な情報発信
- 文化財を活用した学習機会充実、関係機関との連携により文化財に親しむことのできる機会提供

### ※ 美術品等として価値のある古式銃砲や刀剣類の登録事務等

「美術品若しくは骨董品として価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品として価値のある刀剣類」の登録等を行っています。

<http://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/toukennsinnsakai.htm>



### 【主な手続】

- ・ 新規登録  
銃砲刀剣類登録審査会(年4回)において登録可能と判断された場合、銃砲刀剣類登録証を交付します。
- ※ 発見した銃砲刀剣類については、まずは最寄りの警察署に御相談ください。
- ・ 登録証再交付  
道教委登録の銃砲刀剣類登録証の紛失など、登録証の再交付事務は、当課にお問い合わせください。
- ・ 所有者(住所)変更  
道教委登録の銃砲刀剣類について、相続・譲渡・売買等による所有者又は所有者の住所が変更になった場合は、届出が必要となります。



銃砲刀剣類登録審査会の様子

## (8) 市町村等の生涯学習の振興に対する支援

### 【問合せ先】

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7ビル8階 北海道立生涯学習推進センター

道立生涯学習推進センターでは、調査研究や指導者の養成・研修のほか、自主研修団体受入事業や職員派遣事業、相談に関する事業を通して、市町村等の生涯学習の振興を支援しています。

### 【自主研修団体受入事業】

生涯学習関係者等が行う自主的な研修を受入れ、指導や助言等を行っています。

平成28年度の主な受入実績

北翔大学、足寄町教育委員会、平取町教育委員会、後志管内社会教育主事会等

### 【職員派遣事業】

市町村教育委員会や団体等が実施する研修会等へ職員を派遣し、指導や助言等を行っています。

### 【相談に関する事業】

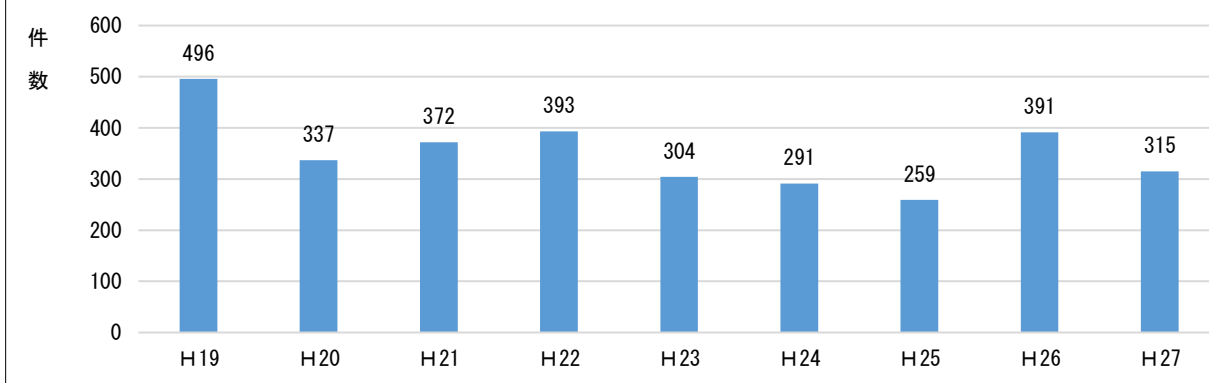
#### ① 企画・研究相談

市町村教育委員会等の生涯学習に関する相談に対する指導・助言を行っています。

#### ② 学習相談

学習相談では、専任の相談員が学習機会や講師の紹介等を行い、学習活動を支援しています。

図8 相談件数の推移



学習相談室「まなびウィング」



北海道の生涯学習情報のポータルサイト  
「生涯学習ほっかいどう」



### 【今後の取組】

今後も生涯学習の動向を踏まえた調査研究や指導者の養成・研修をはじめ、ポータルサイト「生涯学習ほっかいどう」等による学習情報の提供、相談に関する事業などにより、市町村教育委員会や各種団体等への支援を充実させます。

## (9) 各種関係団体等に対する支援

### 【問合せ先】

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館7階 社会教育・読書推進グループ 011-204-5744

### 【団体の状況】

社会教育関係団体とは、「法人である与否とを問わず、公の支配に属しない団体で社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とするもの」(社会教育法第10条)であるとされ、明治期以降、第二次大戦敗戦前までの日本の社会教育は、団体を中心に展開されてきました。その代表的な団体として、**青年団体・女性団体・PTA・子ども会**などがあり、道教委では、補助金の交付や指導助言など、団体の自律性に配慮しながら積極的な活動となるよう、支援を行っています。

また、近年、社会教育の領域においてはNPOが注目されています。平成10年の特定非営利活動促進法第1条において「ボランティア活動をはじめとする市民が行う自由な社会貢献活動としての特定非営利活動の健全な発展を促進し、もって公益の増進に寄与することを目的とする」と規定されているなど、NPOは、地域社会と連携することにより、行政にかわり公共サービスを提供し、公益的な活動を発展させ、地域に貢献しており、さらに地方自治体、他団体と協力して地域の活性化も図っています。



子ども会リーダー研修会の様子



全道PTA広報紙コンクール大賞(H27)

帯広市立啓北小学校PTA、岩見沢市立第一小学校PTA、釧路市立美原中学校PTA

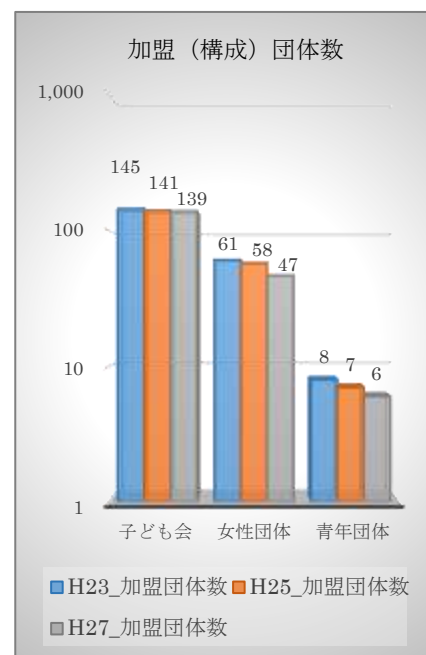


青年活動リーダー養成講座の様子

### 【今後の取組】

本道の社会教育関係団体が、団体数や会員数が年々減少しており、団体の衰退や地方創生にとってマイナスの要素になるのではないかと危惧されていることから、地域課題の解決に向けた住民の参画や協働を促進するために、社会教育関係団体なNPO等の育成・支援に取り組めます

〈参考文献〉国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『新訂生涯学習概論ハンドブック』平成27年7月

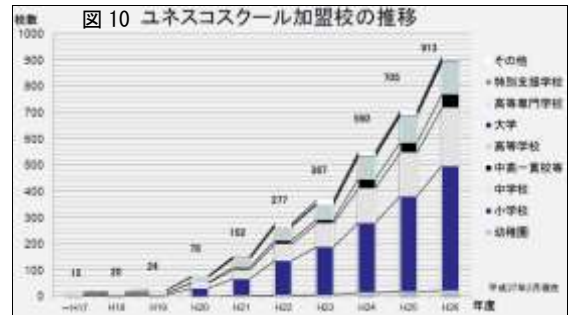


本道の主な社会教育関係団体の加盟（構成）団体数の推移

## (10) その他

### 【ユネスコスクールの加盟促進】

- ユネスコ憲章の理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを研究し、その調整をはかるASPnet(Associated Schools Project Network)に、ユネスコ本部から加盟を承認された学校のことを「ユネスコスクール」と称しており、世界的には10,000校ほど、本道では平成28年12月現在、43校(申請中8校)が加盟しています。



- 我が国では、ユネスコスクールをESD(持続可能な開発のための教育)の推進拠点と位置づけており、道教委は加盟に向けた相談窓口のほか、関係機関の取組を支援しています。

#### ESD (Education for Sustainable Developmentの略「持続可能な開発のための教育」)

ESDとは、環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくことを身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。

- 学校には、法的拘束や義務はないものの、日本ユネスコ国内委員会に報告書の提出や、ユネスコが提案する教材についての教育現場での実験・評価など、積極的な活動が求められています。

### 【学校開放の促進】

- 学校施設は、学校の教育活動に支障のない範囲で積極的に社会教育のために開放するように努めなければならない、と法に規定されており、道教委では、特色ある事例をホームページで紹介するなどして学校開放の促進に取り組んでいます。

(<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/sgg/kaihokoza/index.htm>)

学校開放状況(平成27年度)

	校数	割合
小学校(市町村立)	927校	84%
中学校(市町村立)	409校	67%
高等学校(道立)	40校	20%
特別支援学校(道立)	15校	25%

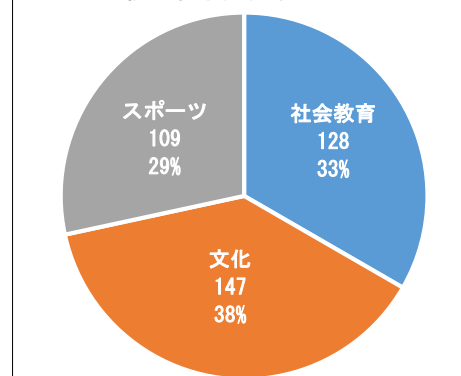
### 【後援名義の承認】

- 本道の生涯学習の振興に向けて、各種大会、講習会、講演会、研究会、展示会、発表会、競技会、キャンプその他の集会の開催又は強調週間等を後援しています。

#### 参考：承認の基準

- ・ 道教委としても、積極的に、奨励するものであること。
- ・ 教育、学術又は文化の普及振興に寄与することが明らかなこと。
- ・ 事業内容に公共性があり、法令に違反しないものであること。
- ・ 事業の実施規模が広範囲にわたるものであること。
- ・ 過去、後援名義使用承認の条件に違反したことがなかったこと。

図11 後援名義承認件数(H27)



### 【子供たちの芸術鑑賞機会の提供】

- 北海道巡回小劇場(道教委)
  - ・ 優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供するため、道が公演料の1/3を補助・・・28ヶ所(H28)
- 文化芸術による子どもの育成事業(文化庁)
  - ・ 巡回公演(芸術文化団体による実演公演)・・・31校(H28)
  - ・ 芸術家の派遣事業(芸術家による講演、実技披露・指導)・・・64校(H28)

### 【各種表彰等】

	表彰名	平成28年度
文部科学大臣表彰	社会教育功労者表彰	三松 三郎氏、合田 一道氏、大木 光恵氏
	優良公民館表彰	浦幌町中央公民館、訓子府町公民館、壮瞥町地域交流センター
	子どもの読書活動優秀実践校等文部科学大臣表彰	恵庭市立松恵小学校、北海道函館北高等学校、札幌光星中学校・高等学校、当麻町立図書館、市立小樽図書館、若小牧子どもの本の会、十勝童話会(帯広市)
	優良PTA文部科学大臣表彰	室蘭市立海陽小学校、札幌市立中沼小学校
	視聴覚教育・情報教育功労者	札幌養護学校、札幌市立月寒小学校、別海中央小学校
		田崎 一郎氏